多摩川水系河川整備計画 フォローアップの意義

【フォローアップの意義】

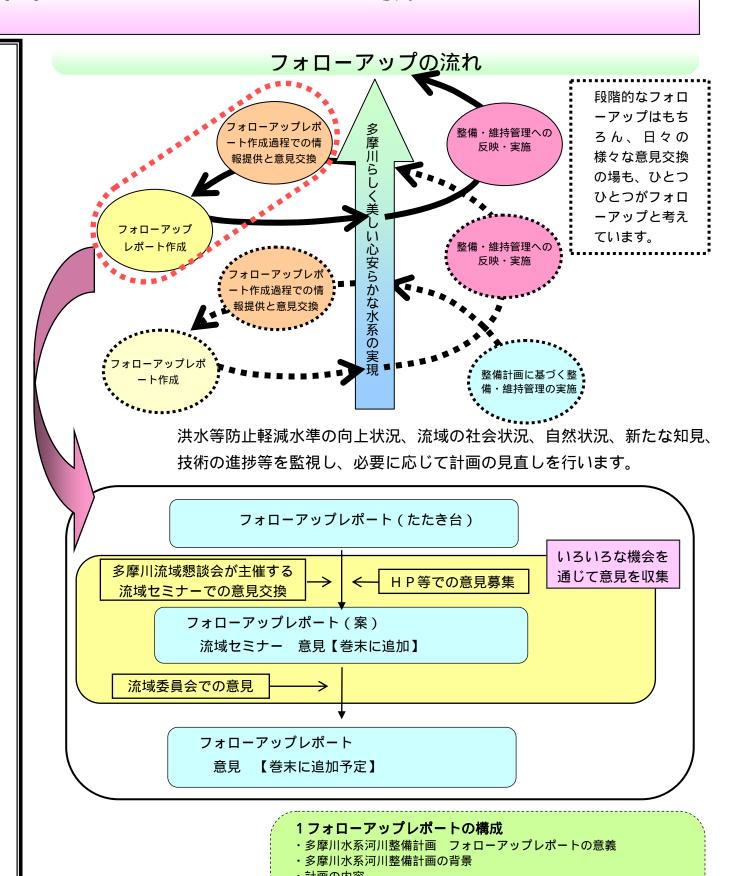
『多摩川水系河川整備計画』【直轄管理区間編】は、約2年の歳月をかけて様々な立場の人々が議論を重ね、平成13年3月に策定された、河川法に基づく計画です。

多摩川の整備・維持管理は、この河川整備計画に沿って実施しており、 その状況については、これまでも、多摩川流域懇談会が主催する多摩川流 域セミナーや多摩川流域懇談会運営委員会での意見交換、ホームページを 利用した情報の提供と意見の収集等を通じて、随時、フォローアップして まいりました。

京浜河川事務所では、河川整備計画に対するフォローアップの意義とその仕組みを次項のように考えます。

- 1 河川整備計画が目指す目標を具体化する施策の達成度や達成の方法 等を点検することで、その達成に向け責任を持って進捗させていく 仕組みをつくる。
- 2 河川整備計画策定プロセス時と同様に、点検の結果を市民に対し幅 広く説明し透明性を確保するとともに、多摩川流域セミナーなどい ろいろな機会を通じ市民と意見交換し、さらに多摩川流域委員会で の意見を聴きながら点検することで、河川整備計画のよりよい達成 を進める仕組みをつくる。
- 3 洪水等防止軽減水準の向上状況、流域の社会状況、自然状況などの変化や、新たな知見、技術の進捗等は、河川整備計画の内容そのものにかかわるため、絶えず監視を行い、その変化によっては必要に応じ河川整備計画の見直しにつなげる仕組みをつくる。
- 4 フォローアップは持続させてこそ意味があり、継続してフォローアップすることで改善につながる仕組みをつくる。なお、フォローアップはまだ完成されたものでないので、試行錯誤を重ねながらよりよい仕組みをつくる。
- 5 フォローアップの成果を積み上げていくため、適宣「多摩川水系河 川整備計画フォローアップレポート」を、河川整備計画の策定者で ある河川管理者が、前項を踏まえて作成する。

このフォローアップは、市民と行政との活発な意見交換をすることで、 より充実したものになると考えます。



・平成 18 年度の実施状況

• 巻末資料

・平成 18 年度における社会状況・自然状況の変化のモニタリング

・多摩川水系河川整備計画に関する流域での活動・多摩川水系河川整備計画の今後の方向性

多摩川水系河川整備計画の背景(1)

「治水」「利水」「環境」の調和を図った法定計画です

【河川法の歴史】

平成9年の河川法改正によって、「治水」「利水」「環境」を総合的にとらえた「河川整備計画」を策定することが義務づけられました。

河川に関する法律である「河川法」は、それまでは、右の図のように、治水のみを取り扱っていた時代、治水に利水が加わった時代、と変化していき、平成9年に現行の法律になりました。

【河川法改正のポイント】

河川法改正で、大きく変わった点が2点あります。

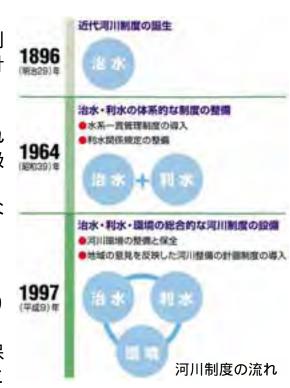
右の図のように、「河川環境の整備と保全」を河川法の目的として位置づけたことです。

新しい河川整備の計画制度を創設することが定められたことです。これが「河川整備計画」です。この計画を作るときには、「地域の意見を反映させること」が義務づけられました。

【多摩川での河川法改正の意味】

多摩川における河川整備は、これまで治水、利水の河川工事についての基本的事項を示した「工事実施基本計画」(法定計画)に基づき、工事が実施されてきました。また、環境面においては、昭和55年に策定された「多摩川河川環境管理計画」に基づき、多摩川の自然環境の保全、秩序ある利用が図られてきました。

平成9年の河川法改正を受けて、行政と市民が約2年の歳月をかけて議論を重ね、関東でトップを切って平成13年3月に策定されたのが「多摩川水系河川整備計画」です。



ステップ バイ ステップ みんなで創った計画です

多摩川では行政と住民が一体となり、よりよい川づくり、まちづくりを推進してきたという歴史があります。多摩川水系河川整備計画の策定にあたっては、こうした背景のもと、市民も参加しながら、計画づくりが始められました。

整備計画は、市民、行政、河川管理者など多摩川に関わる様々な立場の人たちと情報を共有し、意見交換を重ねながら、ステップ バイ ステップで策定されました。

この計画は、多摩川を愛する多くの人々によって支えられ、つくられてきたものです。立場の違う人達が集まり、同じ目線で話し合う形式は多摩川が初めての試みです。



多摩川水系河川整備計画の背景(2)

計画の対象区間と期間

計画対象区間は、多摩川の中でも国(国土交通省)が管理を行っている「直轄管理区間」としています。下の地図の濃いブルーで示している部分です。

ただし、上下水道、地下水、氾濫流など、多摩川水系の河川水が関わる地域も 計画対象区間としています。

計画の対象期間は、およそ20年~30年としています。



計画対象区間と期間

白丸ダムについては、平成 14 年 4 月に事業を完了し、管理を東京都に移管 しました。

計画の特徴~point1

河岸維持管理法線(防護ライン)を設定し、自然な川の流れを最大限尊重しました

多摩川の自然な流れを生かします。

多摩川の自然な流れや環境、河川敷の利用状況等を考慮しつつ、洪水を安全に流せるように整備を行う目安となるのが、河岸維持管理法線(防護ライン)です。

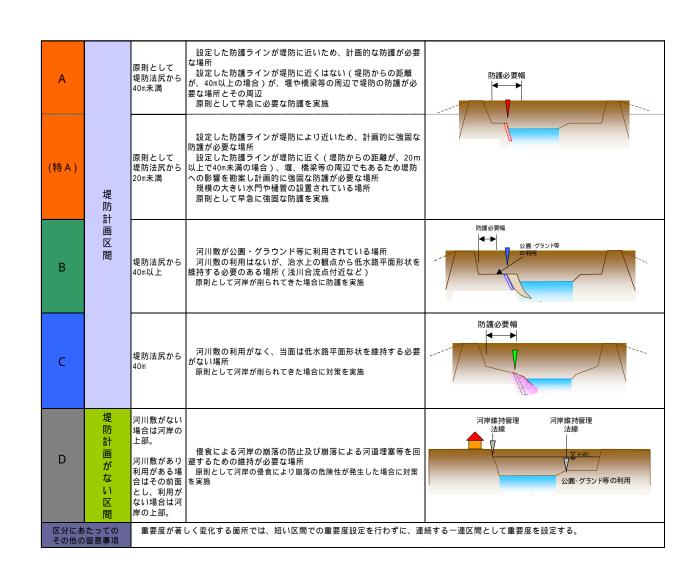
「水の流れる場所はできるだけ堤防から遠ざけて、川の中心にあるべきだ」というこれまでの考え方にとらわれず、河道断面に洪水を安全に流せるだけの深さや幅が確保できる場合は、多摩川の自然な流れを生かした計画にしています。



堤防の重要度に応じて整備を実施します。

防護ラインは堤防に近寄っているところ、離れているところがありますから、 それぞれの状態に応じて「重要度」を定めています。

下の表のように、防護ラインの位置と併せて、河川敷の幅や河川敷の利用状況など、その場所に応じて維持管理の重要度も示しています。



計画の特徴~point2

機能空間区分を設定し、河川の利用と保全のルールを定めました

「多摩川河川環境管理計画」の基本方針

多摩川の"自然環境の保全"と"秩序ある利用"を規定したものが「多摩川河川環境管理計画」(略称「環管計画」)です。自然環境の保全と利用の調和を目指し、人と川とがよりよい関係を結ぶために、3つの基本方針を定めています。

- 1. 多摩川と市民とのふれあいの場を提供する。
- 2. 多摩川らしさを維持する。
- 3. 多摩川らしさを活用する。

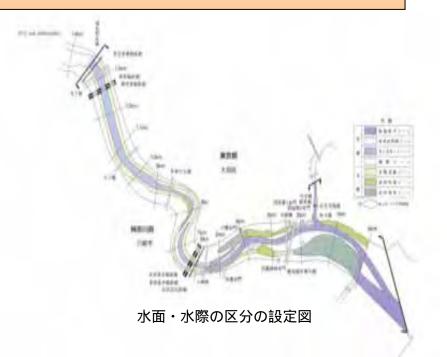
河川敷、水面、水際の空間を、機能に応じて区分しました

昭和 55 年に、市民のみなさんとの対話を経た「多摩川河川環境管理計画」が策定されました。「環管計画」では、多摩川の河口から万年橋までの区間を5つのゾーンに分け、さらにその地域ごとの特性や市民の要望によって8つの機能空間区分に分けて、利用と保全のルールを定めています。

「環管計画」は、河川整備計画の策定にあたって、その内容を時代の変化に対応したものに見直し、その内容が「環境」の基本として、法定計画である河川整備計画の中に位置づけられました。従来5:5であった自然系空間と人工系空間の比率は、6:4 と改められ、より自然を重視した空間区分となりました。また、下流部について、水面、水際部を対象として管理区分を設定しました。

水面・水際の区分

河口から調布橋の区間はボート遊びや釣りが盛んなので、利用する人の安全と自 然環境を守るために、水面と 水際についてそれぞれ区分 を設定しています。



河川敷の区分

河川敷については、河口から万年橋までの区間を5つのゾーン、8つの機能空間区分に分けて、利用と保全のルールを定めています。

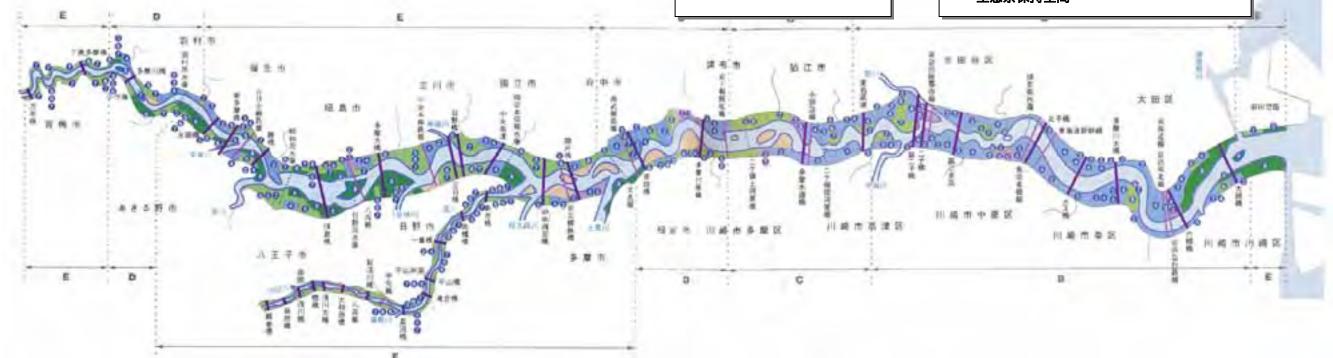
5 つのゾーン

- A 人工整備ゾーン
- B 施設利用ゾーン
- C 整備・自然ゾーン
- D 自然利用ゾーン
- E 自然保全ゾーン

8 つの機能空間区分

避難空間 地先施設レクリエーション空間 広域施設レクリエーション空間 運動・健康管理空間 自然レクリエーション空間

文教空間 情操空間 生態系保持空間



計画の特徴~point3

川づくり全般の計画を定めました

多摩川水系河川整備計画は、維持管理も含めた計画です

多摩川水系河川整備計画には、施設の整備などの「ハード面」の対策だけでは なく、日々の管理や利用のルールづくり、情報提供システムの構築などの「ソフ ト面」の対策も含まれています。

川づくりは、整備したものがきちんと機能する必要があるからです。 そのために必要なことを継続してやっていくのが維持管理です。

河川に関連する情報の提供

水位、流量、雨量、水質、地震等の河川に関連する情報のデータ収集を行い、 その情報を地域の住民の方々に提供する情報収集・提供システムを整えていきま す。

水位・流量

さらに治水計画や河川管理に 用いられます。

2 雨罩観測所

遺域の酒量を計測。洪水時の 水位予測や、治水計画、河川 管理の基礎資料となります。



伝導度、濁度、溶存酸素、アン

国土交通省設置

河川管理施設への地震の影 響を観測するために、国土交 通省で設置している地面計です。

空間利用のルールづくり

たとえば point.2 でご説明した「機能空間区分」については、人工系空間、自然 系空間それぞれで、次のようなルールを作りました。

人工系空間

人工系空間(、 、 については、施設の管理者に対 して、次のような審査、指導を 行います。

- 1)万人が使える日々が適切に あること
- 2)裸地化を極力避けること
- 3)生態系および水質への悪影 響が懸念される化学物質等は 極力使用しないこと
- 4)多くの市民の要望を受けて いること

自然系空間

自然系空間(、 、 、 間)については、人や車の出入 りについて、管理方針を指導し ていきます。

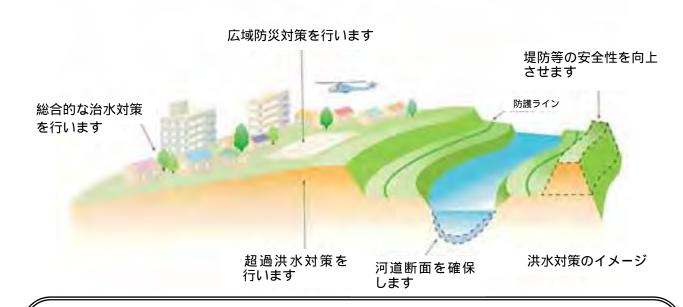
この他にも秩序ある利用のために

- 1) 不法利用
- 2)不法行為
- 3)秩序ある水面利用
- 4)水難事故
- 5)不法放置船舶等
- 6)ホームレス(河川敷の野宿生活者)

などの対策を推進します。

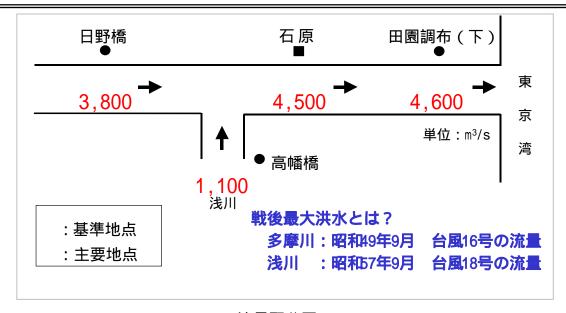
戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(1)

戦後最大級の洪水を安全に流せるような整備を行い、人々の生命・暮らし・財産 を守ります。



洪水対策には、洪水の流量を安全に流すことのできる河道を整備すること(ハード対策)と、洪水がおこった場合にも被害を最小限に抑えるようなしくみをつくること(ソフト対策)の2つがあります。

整備計画を実施するにあたって、ハード対策とソフト対策の両面をそれぞれバランスよく行うよう配慮しながら取り組んでいます。



流量配分図

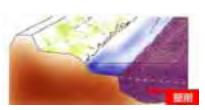
堰対策

堰による流れの阻害で河床に溜まった土砂をさらい、本来の河道断面に戻す工事を行います。また 抜本的な対策として、堰そのものについても検討を 行っていきます。



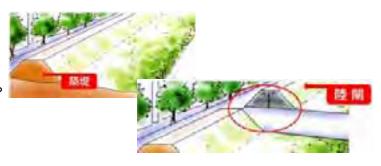
河道掘削

多摩川本川では、各堰の対処を行い、堰上流部の 河道を広げ、溜まった土砂をさらいます。



築堤と陸閘の対策

堤防の必要な高さや幅が不足している区間については、 それを確保するよう努めます。 陸閘については解消し、築堤 していきます。



樋門対策

築堤整備が必要な箇所に樋門がある場合には、築 堤にあわせて、この樋門の機能を保持する樋門対策 を行います。



床止め対策

浅川では老朽化した床止めが阻害となり、土砂が 溜まっている箇所などがあるため、床止めの改築・ 撤去・新設を実施します(平成 15 年度をもって完 了)。



高潮対策

河口から六郷橋(大田区仲六郷) までの区間において、高潮に対応 した堤防の整備等を実施します。





戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(2)

堤防の安全性を向上させます

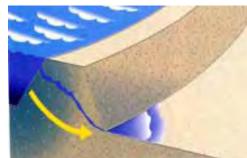
堤防強化対策

堤防等の安全性向上対策として、 流水による浸透・侵食に対し、 堤防等を保護します。



漏水対策

漏水は堤防の決壊につながります。 そのため、漏水のおそれのある 部分の補強を行います。



水衝部対策

堤防崩壊の危険性があるので、 水衝部(水が直接当たる部分)に 侵食が見られる箇所の 補強を行います。



多摩川堤防侵食集中対策プロジェクト

多摩川では平成 15 年度から平成 18 年度にかけて、早急に防護の強化が 必要な堤防箇所に対して集中的に対策を行う「多摩川堤防侵食集中対策プロ ジェクト」が実施されました。



布田地区(着工前)



布田地区(完成後)

総合的な治水対策を行います

流域の保水・遊水機能を増進するとともに、緊急時に被害を最小にするよ うなソフト対策を行います。



地面の下にある浸透施設のイメージ図

超過洪水対策(高規格堤防)を行います

action5 参照

広域防災対策を行います

震災発生時に防災施設や被災地域等との確実な連絡を図るための緊急的な 輸送路として、緊急用河川敷道路の整備を行います。

また、震災時の拠点ともなる地域防災活動拠点(洪水・高潮災害時には、 水防拠点及び河川防災ステーションとして機能)を東西方向の主要道路と緊 急用河川敷道路に整備します。



川崎市幸町緊急用船着場



緊急河川敷道路

戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(3)

洪水、高潮等による災害を防止、または被害を最小限におさえるために ~治水に関する維持管理~

災害時の情報(国土保全管理情報)を的確に集めます。









水位・流量観測施設

雨量観測所

水質自動監視装置

河川巡視、モニタリング活動により、異常の早期発見に努め、機動的な維持管理を行います。



河川巡視

河川管理施設の適切な操作を行い、機能を維持していきます。

被災時における二次災害の防止に努めるため、平常時は被害軽減のための 洪水、高潮体制の充実を図っていきます。





水防訓練の様子

関係機関と連携して広域防災機能を強化します。



防災ステーションの イメージ図

災害時の情報提供体制の充実を図っていきます。







京浜河川事務所内の災害対策室の様子

「多摩川流域リバーミュージアム」を実現します

多摩川への理解を深め価値を共有するため、多摩川流域リバーミュージアム計画 を実現します。

多摩川流域リバーミュージアムは、多摩川に対する理解不足から発生する環境 や景観の破壊、利用者同士の揉め事等を防ぐ上で、自然の実態、生態系、川にま つわる歴史や文化など、多摩川の持つ価値を広く啓発していくために、多摩川水 系全体を博物館ととらえ、万人が多摩川の持つ価値を学習し、認識ができるよう にするものです。



3つの柱

多摩川を学習や活 動のフィールドに

多摩川ともっとも っとふれあいたい

多摩川をもっと知 りたい、知らせたい

リバーミュージアムの・シージ語

多摩川流域リバーミュージアム(TRM)の実現に向けて、 生態系の回復、人と川のふれあい、福祉、歴史文化などのそれ ぞれの視点から、整備や支援を行っています。

TRMを進めるにあたっては、市民のみなさんや流域自治体 との連携により「多摩川らしさ」を共有し、ひとつひとつの取 り組みを協働の精神で行っていくことが大切と考えています。

豊かな自然を守るために~牛熊系保全回復関連対策

多摩川の生態系を回復させることを目的にして、環境整備に取り組みます。

- ワンドの整備
- ・ 魚道の整備
- リバービオコリドーの整備

きれいな水、安全な水をもとめて~水環境関連対策

action4 参照

憩い、遊び、学べる川をめざして~人と川のふれあい関連対策

多摩川が人と自然、人と人とのコミュニケーション空間となるような環境整備 をすすめます。

- ・ 水辺の楽校
- ・ 水辺再発見プロジェクト
- ・ 岸辺の散策路
- 川の一里塚
- ・ 水と緑のネットワーク
- 渡し
- · TRM情報拠点

多摩川をバリアフリーに~福祉関連対策

高齢者や障害者の方にも、気軽に多摩川に訪れてもらうため、バリアフリー化 を推進します。

・緩傾斜坂路(スロープ)

文化を育んできた川だから~歴史文化関連対策

多摩川の歴史文化を多くの方に知ってもらうために、多摩川や流域の歴史・文 化の情報を収集し、多摩川への来訪者などへ積極的に提供していきます。

河川環境を保全するために~河川環境に関する維持管理

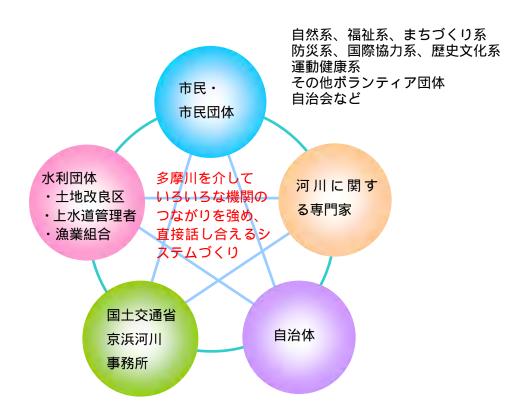
- ・河川環境の秩序ある保全と利用、人と川とのふれあい機能を維持していきま す。
- ・多摩川流域の各主体が連携を図り、きめ細かな河川管理をめざします。
- ・河川環境管理計画を尊重した河川管理を行います。

協働の維持管理をめざします

行政と住民が協力しあい、自然豊かな川づくりをめざします

多摩川流域の自治体・市民団体などさまざまな主体をリンクアップしなが ら市民参加を支援します。

河川管理者、関係機関、自治体、学識経験者、自治会及び市民団体等が、それぞれの役割を認識して有機的な連携を図りながら、河川管理をしていきます。



河川整備計画の策定は、住民や流域自治体と河川管理者が「協働」してつくりあげました。

維持管理も、多摩川のよき伝統である「協働」の精神で行っています。

また、維持管理は、平常時・非常時ともに適切かつ機動的な対応をとることを努めています。

計画の内容~action4 水流実態解明プロジェクトで水流の調査・研究を行います

多摩川流域の水の循環を解明するため「水流実態解明プロジェクト」を 推進します。

現在の多摩川の水量・水質の変化や、水の利用状況等を調査・研究し、 その実態を明らかにする目的で行われるのが、「水流実態解明プロジェクト」です。

多摩川の水を今後も利用し続けていくためには渇水時の対策や、雨水の地下への浸透による保水、地下水の保全、湧水の保全等が必要となってきます。それを円滑に行うには、森林保護・育成等により、できる限り地面が水分を吸収できる環境をつくらなくてはなりませんし、都市部や住宅地においては、浸透舗装や浸透マス・浸透トレンチ等を設置することで、地下への雨水の浸透を促す必要があります。

本プロジェクトでは次のような調査が予定されています。

河川流量の挙動調査

支川・水路の流量調査及び湧水実態把握

水利用の実態調査

地下水位の実態調査

本支川浄化機能の総合的評価調査

面源負荷状態举動調查

有害化学物質、病原性微生物の実態調査

生物状態調査

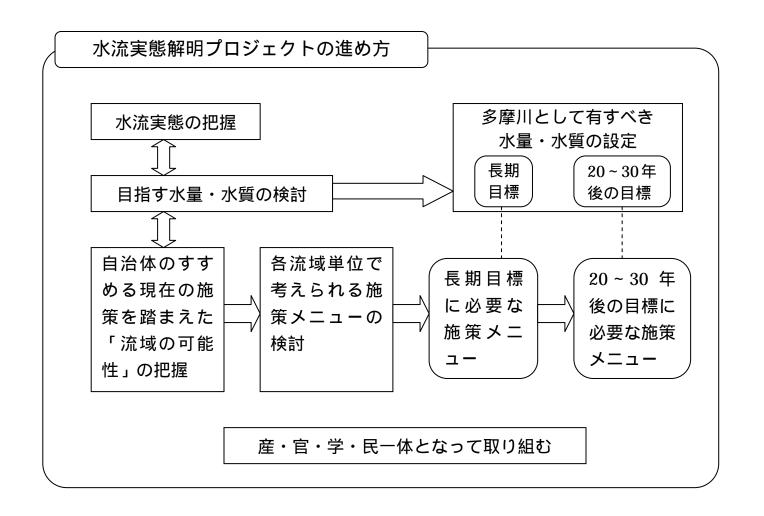
処理水流下状態挙動調査

これらの調査結果に基づいて、多摩川を本来の豊かで清らかな流れに戻すための整備や管理が行われます。

また、「総合的流水管理対策」を、地域住民、関係自治体、関係機関等と一体となり、推進していきます。

流域の雨水浸透機能の保全・回復、地下水の保全、湧水の保全・回復、 異常渇水に対する備え、地震発生後における防災用水としての河川水の有 効利用、及び水路網の復活などを総合的に考慮して対策していきます。 「水流実態解明プロジェクト」では、水流の実態を明らかに するとともに、多摩川の水に対する沿川住民のみなさんの要望 をできる限りかなえることも重要と考えています。

ここでも「協働」の精神にのっとり、流域の意向アンケート や水流解明キャラバンなどの取り組みを市民のみなさんや流域 自治体と協力して行っています。

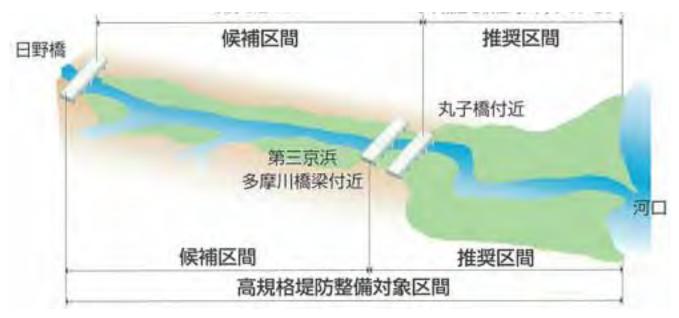


スーパー堤防の整備を進めます

超過洪水対策(高規格堤防)を行います。

超過洪水とは、計画の規模を上回る洪水のことで、これに対する対策として高規格堤防(スーパー堤防)の整備が挙げられます。

首都圏を壊滅的な被害から守ることを目的としたスーパー堤防は、河口から左岸・丸子橋、右岸・第三京浜多摩川橋梁付近までは推奨区間として、スーパー堤防とまちづくりの一体的整備について提案や検討を進めていきます。また、その上流から日野橋までは候補区間として、地域のまちづくりの機運などを勘案し、検討を進めます。



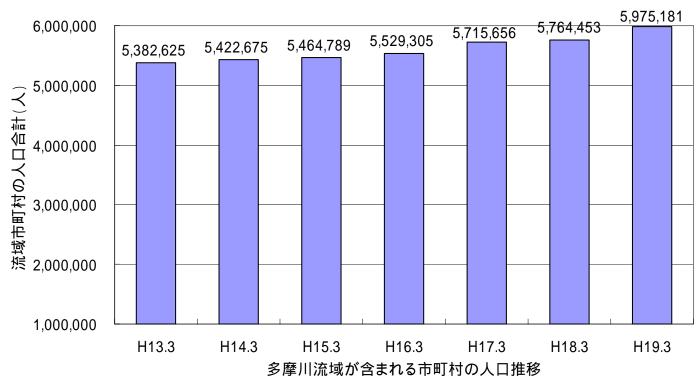
平成13年2月に策定された『多摩川沿川整備基本構想』に示されている「推奨区間」と「候補区間」で、洪水や地震に強く、また水と緑に親しむことのできる水辺空間を創造することができるスーパー堤防の整備を進めています。



平成 18 年度における社会状況・自然状況等の変化のモニタリング(1) 社会状況の変化のモニタリング

人口の推移

多摩川の流域は、東京都の26市区町村、神奈川県川崎市の6区、山梨県の1市2村にまたがっています。多摩川流域が含まれる市区町村の人口総数は、昭和50年までは急増しましたが、高度成長期が終わった昭和50年代以降は穏やかな伸びになっています。多摩川水系河川整備計画が策定された平成13年3月から平成19年3月までの6年間で、人口は約7%増加しています。



資料:「全国市町村要覧」各年3月31日現在の値、H19は東京都総務局、川崎市、山梨県のHP山梨県甲州市については、旧塩山市のみを以前の人口の割合から算出して加えている。

河川空間の利用実態調査を実施

平成 18 年度に、河川水辺の国勢調査の一環で「河川空間利用実態調査」を実施しました。

これによると、平成 18 年度 1 年間の多摩川水系の直轄管理区間における利用 者数は、1607 万人になり、前回調査の平成 15 年度と比較して、約 270 万人の 増となりました。

国土交通省をはじめとした社会の動き

提言「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について」

平成 16 年の新潟、福井等における破堤等の災害や平成 17 年の台風 14 号における浸水被害の発生等、近年の豪雨災害を踏まえ、国民生活の「安全・安心」を実現・維持するための今後の河川管理のあり方について、「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討委員会」を設置し、平成 17 年 12 月 22 日より 5 回にわたって審議し、検討会の提言がまとめられました。

<提言のポイント>

本格的な維持・更新の時代に対応した効率的で確実な河川管理 河川環境管理の推進

現在の施設能力を超える大規模な出水等への対処

「多自然川づくり基本指針」の策定

平成2年に多自然型川づくりが始まって以来、多自然型川づくりが定着しつつある一方で、依然として画一的な標準横断形で計画したり、河床や水際を単調にするなど、課題の残る川づくりもまだ多く見られます。

このため、これまでの多自然型川づくりの現状を検証し、新たな知見を踏まえた今後の多自然型川づくりの方向性について検討を行うため、平成 17 年 9 月に「「多自然型川づくり」レビュー委員会」を設立し、平成 18 年 5 月に委員会から提言「多自然川づくりへの展開」が出されました。

国土交通省はこの提言を踏まえ、平成2年に定めた「多自然型川づくり実施要領」を廃止し、多自然川づくりの新たな展開を図るべく「多自然川づくり基本指針」を定めました。

<基本指針のポイント>

モデル事業であるかのような「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」 へ

「多自然川づくり」をすべての川づくりの基本とする 川づくりのあらゆるプロセスを通じて「多自然川づくり」を実現

その他

その他には、主に以下の動きがあげられます。

「河川堤防設計指針」が平成19年3月に改訂されました。

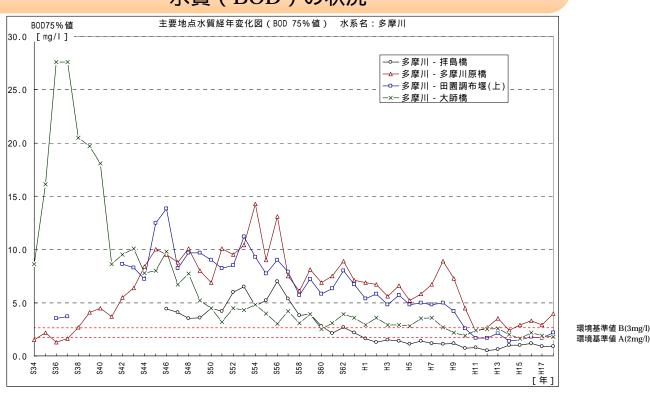
「「河川景観の形成と保全の考え方」が平成 18 年 10 月に策定されました。 「洪水等に関する防災情報体系のあり方について」(提言)が平成 18 年 6 月に出されました。

平成 18 年度における社会状況・自然状況等の変化のモニタリング(2) 自然状況の変化のモニタリング

平成 18 年度に実施した洪水対策の体制

平成18年度には、注意体制3回、異常潮位に対して警戒体制に1回入りました。

水質 (BOD) の状況



・これによると、近年はほとんどの地点で環境基準値を満足しています。

動植物の状況

- ・平成 18 年度には魚類調査、および植物調査(平成 17 年度から継続)を実施しました。
- ・多摩川での動植物の確認状況は、最新データ(平成9年度から平成18年度の調査結果)では、次のとおり確認しております。

各調査の最新データ

分類	確認種
魚類	66
底生動物	322
植物	812
鳥類	123
両生類	9
爬虫類	8
哺乳類	13

巻末資料に、平成 18 年度の調査項目である魚類、および植物のデータを添付しております。



国土交通省河川局のホームページ http://www.mlit.go.jp/river/ における、水情報国土 http://www.mlit.go.jp/river/IDC/index.html では、

- ・川の防災情報<u>http://www.river.go.jp/</u> で全国のリアルタイムの 水質も提供されています。
- ・水文・水質データベース http://www1.river.go.jp/ で、 雨量、水位、流量、水質、底質、地下水位、地下水質、積雪深、 ダム堰等の管理諸量、海象のデータを公表しております。
- ・河川環境データベース

<u>http://www.mlit.go.jp/river/IDC/database/databasetop.html</u> では、河川水辺の国勢調査の調査結果について、調べることができます。

京浜河川事務所のホームページhttp://www.keihin.ktr.mlit.go.jpでも、動植物図鑑http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/illustrated book/index.htmにて、多摩川(鶴見川・相模川)の鳥類図鑑・魚類図鑑・植物図鑑を見ることができます。

平成 18 年度の実施状況

構成と記述内容について

(p.17~p.39)

 $(p.44 \sim p.68)$

平成 18 年度までの実施内容

河川整備計画における具体的なメニューである『第2章河川整備の実施に関する事項』の本文と、平成18年度の実施状況をとりまとめたものです。 なお、実施項目の記述に当たっては、工事や業務の完成を基本に取りまとめています。

また、河川整備計画が策定されてから未着手となっている項目については、 『整備に着手できない理由』を記入しています。

平成 18 年度までの実施項目一覧表 (p.40~p.43)

河川整備計画における具体的なメニューである『第2章河川整備の実施に関する事項』に記載されている一覧表の部分について、『多摩川水系河川整備計画』策定後の平成13年度から平成18年度までの実施状況をとりまとめたものです。

平成 18 年度の実施状況の評価

平成18年度までの実施内容に記載されている平成18年度の実施内容に関する主な取り組みについて、実施した内容をわかりやすく説明できるよう必要性・重要性などを記載し、達成の状況や効果などについて詳細に説明し評価したものです。

作成過程において、平成19年度の実施状況も適宜記載しております。

平成18年度の実施状況

第2節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要 第1項 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
災害の発生の防止又は軽減のための河川整備については、流域の社会情勢、気候の変化を踏まえた <u>継続的な流域と河道のモニタリング</u> を実施しながら、その結果を踏まえて、要対策箇所や対処方策を見直しつつ、整備計画目標流量を安全に流下させるための対策及び高潮対策	継続的なモニタリングの実施 と整備計画流量の安全な流 下への対策	-	・河道内の形状をモニタリングするため直轄管理区間の定期縦横断測量を実施している。 (基本的に2年に1回程度、または出水後に実施。前回:平成17年度、次回:平成19年度実施予定) ・空中写真による河道現況の把握を行っている。 (基本的に2年に1回程度、または出水後に実施。前回:平成17年度、次回:平成19年度実施予定)
これらの対策にあたっては、地震防災のため <u>構造物の</u> <u>耐震化</u> 等を図る。	地震災害に対する対策	-	・河川整備計画では『整備計画目標流量を安全に流下させる』ことを優先的に整備することとし、構造物の耐震劣化等は、『河川構造物の耐震性能照査指針(案)』に基づき、適宜照査を行いつつ、新たに構造物を設置する場合または、照査結果や老朽化等による改築等を行う場合に考慮する。
また、整備計画目標流量が安全に流下することが可能 な河道断面積が確保されている場合については、原則と して低水護岸等の河川工事は行わないこととする。			
さらに必要に応じ、河川工事を行う場合については、 <u>水</u> 際の多様な環境に十分配慮した対策を行う。	環境に配慮した対策	・護岸工事などを実施する際には、かごマットや長尺土 嚢群の採用や、現地の河床材料を利用した護岸への覆土 などに取り組んだ。 ・今後は「多自然川づくり基本指針」に基づき、河川工 事を実施する。	<u>-</u>
加えて、堤防については、 既設の堤防及び護岸の構 造、質的状況等を調査 するとともに、築堤や堤防強化対策が必要となる場合には、堤防法面を表のり裏のりとも一枚のりとし、浸透、侵食、越水及び地震に対する技術検討を加え、 安全性を向上させた信頼性の高い構造 とする。	現況施設の評価とその対策	・河川堤防設計指針等の技術指針に基づき、現況堤防の 安全性評価に取り組み、整備優先順序、対策工等を検 討。	-
整備途上段階での安全度の向上を図るため、小河内ダム等の 既存施設の有効利用 を図るとともに、 流域内の 洪水調節施設の設置についても調査・検討 を行う。	既存施設の活用と流域の総 合的治水対策	-	・河川整備計画の治水の目標である戦後最大規模の洪水を安全に流すための整備を優先的に行い、洪水調節施設等については今後検討を進める予定。

(1)**多摩川本川** 河道断面の確保対策

カ	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
戦後最大規模(整備計画目標流量規模)の洪水を安全に 流下させるため施設管理者と連携して 堰の対処及び堰 上流部の河道掘削・浚渫等を行う河道断面確保対策 推進する。	堰対策及び河道掘削・浚渫	・多摩川全川の土砂移動を勘案した河道の管理の観点から学識者や専門家を交え、助言等を頂き、調査・検討を 実施。	
特に、多摩川本川の中で、氾濫域が大きく、狭窄部で土砂の堆積により河道断面積が不足している石原地点周辺の流下能力を確保するために、直下流の二ヶ領上河原堰の対策を早急に行い、当該区間の河道掘削・浚渫等を行う。	二ヶ領上河原堰の対策及び 当該区間の河道断面確保対	・二ヶ領上河原堰については、かん入部の撤去を実施。 ・上記の(土砂移動を勘案した)検討において、早急に 対策する必要がある二ヶ領上河原堰及び石原地区につい て先行して検討。	-
また、その他の堰については、阻害率、治水効果、上下 流のバランスを総合的に勘案し順次その対処を行う。		・対策について、多摩川全川の土砂移動を勘案した河道 の計画・管理の観点から学識者や専門家を交え助言等を 頂き、調査・検討を実施。	
なお、予期しない災害が発生した場合には、その堰の対 策を緊急に講じる。		-	-
堤防の必要な幅や高さが不足している調布市多摩川地 先等の区間においては、 河川管理施設等構造令等を踏 まえて築堤 を実施する。	河川管理施設等構造令を踏 まえた築堤の実施		・周辺の利用状況や緊急性を踏まえ、他の対策との優 先順位などを考慮しつつ地域との調整を図りながら整 備を行う予定。
また、 上丸子陸閘等の陸閘については、その解消 を図 る。	陸閘の解消		完了
洪水を安全に流下させる観点から 著しく治水上の支 障となる橋梁や、老朽化等により機能に不安のある樋 門等については、施設管理者に対し適切な対処を行う よう指導する。	治水上の支障となる河川管 理施設の改善の指導	・出水期前に従前どおり、占用者等と履行検査を行い、 指導を行う。	-
また、高潮の発生による災害の防止又は軽減のため、 河口から六郷橋までの高潮区間において 高潮堤防の整 備等必要な対策 を実施する。	高潮災害の防止・軽減に必 要な対策	-	・背後地の利用状況などを考慮し、他の対策との優先 順位を考えながら適宜整備を行う。

堤防等の安全性向上対策

・	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川の流況等により堤防防護に必要な河川敷幅が確保できない川崎市戸手地先や、高速流の発生により低水部の洗掘のおそれがある稲城市大丸地先等においては、 水 衝部・洗掘対策として強固な低水護岸 等の対策を行う。	堤防防護に必要な水衝部・洗掘対策	・河川堤防設計指針等の技術指針に基づき、現況堤防の安全性評価に取り組み、整備優先順序、対策工等を検討。 ・多摩川全川の土砂移動を勘案した河道の管理の観点から学識者や専門家を交え助言等を頂き、調査・検討を実施。 ・平成18年度は下石原(左岸29k付近)・下布田(左岸25k付近)地区が完了し、多摩川堤防侵食集中対策プロジェクトにおいて整備予定の全区間の整備が完了した。・是政(左岸33k付近)地区については、対策地区としていたが、近年の状況から河岸前面の土砂が堆砂傾向であることから、引き続きモニタリングを行い、適切なタイミングで対策を行う。	-
	漏水実績及び堤防点検結果 を踏まえた堤防強化対策・漏 水対策	・河川堤防設計指針等の技術指針に基づき、現況堤防の安全性評価に取り組み、整備優先順序、対策工等を検討。 ・平成18年度は下石原(左岸29k付近)・下布田(左岸25k付近)地区が完了し、多摩川堤防侵食集中対策プロジェクトにおいて整備予定の全区間の整備が完了した。・是政(左岸33k付近)地区については、対策地区としていたが、近年の状況から河岸前面の土砂が堆砂傾向であることから、引き続きモニタリングを行い、適切なタイミングで対策を行う。	-
なお、堤防等の安全性向上にあたっては、全川にわたり、必要性、緊急性、利用面、景観及び環境面等を総合的に判断して必要な 堤防強化対策 を行う。	全川にわたる堤防強化対策 の必要性の検討及び整備	・河川堤防設計指針等の技術指針に基づき、現況堤防の 安全性評価に取り組み、整備優先順序、対策工等を検 討。	-

総合的な治水対策

総合的な治水対策			
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
人口、資産が極めて高度に集積し都市化の進展した本川流域の特性に鑑み、流域の保水・遊水機能の保全・改善対策の支援を行うとともに、警戒避難体制や情報 伝達の充実、土地利用の適正化誘導、住まい方の工夫、越水しても被害を最小限にする対策及び防災教育等を関係機関や地域住民等と連携して推進する。	ソフト対策を含む総合的な治 水対策	・平成18年9月 八王子市ハザードマップ公表 ・平成19年1月 福生市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 昭島市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 狛江市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 多摩市ハザードマップ公表 ・多摩川水防連絡会を実施し、沿川自治体と情報交換を 行った。	-
超過洪水対策			
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
破堤による流域の壊滅的な被害を回避するなど危機に 備えたまちづくりを積極的に支援するため、 超過洪水 対策を推進する。	超過洪水対策の推進	・超過洪水対策として、高規格堤防を促進。	-
特に、首都圏の壊滅的な被害の防止のため設定した河口から日野橋までの高規格堤防整備対象区間(支川背水区間を含む)に関しては、河口から左岸・丸子橋、右岸・第三京浜多摩川橋梁付近までを「推奨区間」として、 高 規格堤防整備とまちづくりの一体的整備について、まちづくりの構想を提案や検討を進める。	高規格堤防整備推奨区間に おける整備構想の提案及び 検討	【推奨区間】 ・1箇所(大師河原地区)で整備が完了。 ・2箇所(戸手地区・小向仲野地区)で整備を継続。	-
その上で、整備に向けての機運を高めていくとともに、 関係者の合意が得られた地区について整備を推進する。		・高規格堤防に関するパンフレットを製作し配布。 ・二子玉川地区においてサポートシステムを設置、地元 での勉強会等を実施。	-
	高規格堤防整備候補区間に おける整備構想の提案及び 検討	・高規格堤防事業実施区間の抽出・検討を実施。	–
その上で、関係者の合意が得られた地区について整備を 推進する。	高規格堤防整備候補区間に おける整備の推進	【候補区間】 ・1箇所(矢野口地区)で整備が完了。	-
なお、高規格堤防の整備にあたっては、市街地整備との綿密な連携を図るために、計画づくりのための連絡調整を図る <u>「多摩川沿川整備協議会」の設立運営やまちづくりボランティア活動との連携を図るとともに減災</u> 型まちづくり対策の支援を行う。	立運営及び減災型まちづくり	・大師河原地区において、河川防災ステーションを整備 中。	-

広域防災対策

キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
緊急用河川敷道路の整備	・緊急用河川敷道路は、川崎市大師河原地先452m・川崎 市鈴木町地先170m・平瀬川橋梁一箇所の整備を完了	-
地域防災拠点の整備	・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備と の一体整備を促進。	-
高規格堤防等の整備等に併 せた効率的な地域防災活動 拠点の整備	・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備と の一体整備を促進。	-
車輌交換場所の整備、緊急 用船着場の整備、河川敷へ リポートの整備	・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備と の一体整備を促進。	-
減災対策としての樹林帯整 備	-	・堤防背後地の利用状況、他の対策との優先順序等を 考慮しながら対策を行う予定。
遊水機能の確保を前提とし た土地利用誘導	-	・他の対策との優先順序等を考慮しながら、具体的な 施策について検討を進める予定。
情報通信機器の整備、高度 情報機器の配備による情報 収集提供体制の充実	・非常時に備え、7箇所でCCTVカメラネットワーク強化 を実施。	-
	緊急用河川敷道路の整備 地域防災拠点の整備 ・に動いの整体 ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・に動いを ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・では ・では	マ島用河川敷道路の整備 ・緊急用河川敷道路は、川崎市大師河原地先452m・川崎市鈴木町地先170m・平瀬川橋梁一箇所の整備を完了 ・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備との一体整備を促進。 高規格堤防等の整備等に併せた効率的な地域防災活動の一体整備を促進。 ・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備との一体整備を促進。 ・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備との一体整備を促進。 ・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備との一体整備を促進。 ・・平成18年度において大師河原地区スーパー堤防整備との一体整備を促進。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(2)**浅川** 河道断面の確保対策

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
戦後最大規模(整備計画目標流量規模)の洪水を安全に流下させるため、石田床固や長沼床固等の 河川管理 施設の改築・撤去、及び長沼床固上流部等での 河道掘 削を行う。	床固め等の河川管理施設の 改築·撤去及び河道掘削	・長沼床固~山田川合流点間の河道掘削については、今後土砂の移動をモニタリングしながら必要に応じて実施。 (平成15~18年度と引き続き調査)	-
また、流域の地層は上総層群の分布により、河道においていわゆる土丹の露出している箇所が見られるため、これを考慮した河床変動調査による将来河床の予測や侵食、剥離、水跳ね等を考慮した河床安定対策等を検討し、適切な対処を行う。	将来河床の変動状況の予測 及び河床安定対策等の検討	-	・河道内の形状をモニタリングするため直轄管理区間の定期縦横断測量を実施している。 (基本的に2年に1回程度、または出水後に実施。前回:平成17年度、次回:平成19年度実施予定) ・空中写真による河道現況の把握を行っている。 (基本的に2年に1回程度、または出水後に実施。前回:平成17年度、次回:平成19年度実施予定)
		-	・築堤に伴って改築が必要な樋門の残りの箇所につい て、適宜管理者と協議を実施する必要がある。
洪水を安全に流下させる観点から著しく 治水上の支 障となる橋梁や老朽化等により施設の安全性が確保できない樋門等については、施設管理者に対し適切な対 処を行うよう指導 する。		・出水期を前に従前通り、占用者等と履行検査を行い、 指導を実施。	-

堤防等の安全性向上対策

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
高速流の発生により低水部の洗掘のおそれがある日野市石 田地先等において、 水衝部洗堀対策として強固な低水護岸等 の対策 を行う。	強固な低水護岸等による水衝 部洗掘対策	・明神地区 2 箇所(明神町、明神町下)で施工中。 ・大和田地区 1 箇所(大和田町 7 丁目)で完了。	-
また、築堤に伴い、日野市高幡地先等の区間において <u>高水護</u> <u>岸の整備</u> を行う。	築堤に伴う高水護岸の整備	・明神地区2箇所(明神町、明神町下)で施工中。	-
		河川堤防設計指針等の技術指針に基づき、現況堤防の安全 性評価に取り組み、整備優先順序、対策工等を検討。	-
さらに、湯殿川合流点上流の特殊防御区間については、特に洪水時の堤防の安全性の確保が十分ではない箇所において、河川敷造成等必要な対策を行う。	河川敷造成等による堤防の安 全性確保対策	・明神地区2箇所(明神町、明神町下)で施工中。	-

総合的な治水対策

本文	キーワード	平成18年度の実施項目	整備に着手できない理由
急勾配で洪水が一気に流下するうえ、市街地が中・下流域 に集中している浅川流域の特性に鑑み、 上流域の開発に伴う	土砂流出抑制対策及び雨水の 保水・遊水機能の保全・改善 対策支援、土地利用の適正化 誘導	-	・沿川の自治体や関係機関等と連携を図りながら、具体的な対策について検討を進めていくとともに、それぞれの役割分担や支援方法等について調整を図っていく予定。
また、中・下流域においては、 <u>住まい方の工夫等、破堤・越水による被害を最小限にする対策</u> 、及び洪水到達時間が短いことを念頭に置いた 警戒避難体制や情報伝達の充実 等を関係機関や地域住民等と連携して行う。	破堤、越水被害を最小限にする対策及び警戒避難体制・情報伝達の充実	・平成18年9月 八王子市ハザードマップ公表 ・平成19年1月 福生市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 昭島市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 狛江市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 多摩市ハザードマップ公表 ・多摩川水防連絡会を実施し、沿川自治体と情報交換を 行った。	-

広域防災対策

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
浅川流域でも本川流域同様、人口、資産等の集積が進んでいるために、ひとたび洪水等により破堤した場合には、甚大な被害が想定されるとともに、流域全体が「南関東地域直下の地震により著しい被害を生じるおそれのある地域」に指定されおり、大規模地震による河川管理施設や流域市街地の被災が想定される。			
このため、洪水時には氾濫被害を最小限に抑える活動拠点となり、震災時には被害の円滑な復旧・復興の支援拠点となる地域防災活動拠点(水防拠点及び河川防災ステーション)を関係自治体と連携して整備を推進する。		-	・他の対策との優先度を勘案しつつ、浅川における地 域防災活動拠点のあり方を今後検討予定。
また、緊急車両が堤防上を往来可能とするための 車 両 交換場所等の整備 を推進するとともに、越水による 洗堀の防止や氾濫流による破堤部の拡大防止など減災対 策として、 樹林帯を整備 する。	車輌交換場所等の整備及び 樹林帯の整備	-	・背後地の利用状況などを考慮し、他の対策との優先 順位を考えながら整備を行う予定。
さらに、河川情報を瞬時に把握し、防災活動の初期から的確かつ迅速な対応を可能とするため、 <u>光ファイバなどを用いた情報通信機能を整備</u> するとともに <u>高度情</u> 報機器を配備し、情報収集提供体制の充実を図る。	情報通信機器の整備、高度 情報機器の配備による情報 収集提供体制の充実	-	・背後地の利用状況などを考慮し、他の対策との優先 順位を考えながら整備を行う予定。

第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の確保に関する事項

第2項 州川の通正な利用及び流小の正吊な機能の確 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、 多摩川の流量の挙動 や本支川浄化機能の総合的 評価、面源負荷状態の挙動、地下水状態の挙動、雨水 状態、有害化学物質・病原性微生物の実態、生物の生 息・生育等の状況、下水道処理水の流下状態の挙動等 について関係機関等と一体となって調査・研究を行 う。	多摩川水流実態解明のための調査・研究	・「川の流れ、その由来と行方を知ろう~多摩川流域水 流実態解明プロジェクト 行動指針/計画~」のとりまと めを実施。	-
その結果を踏まえ、多摩川の水流として有すべき水量とその変動及び水質などを明らかにし、流域自治体、関係機関及び地域住民と連携を図りながら 目標値の決定 を行うとともに、河川整備計画の見直しを行って必要な施策を講じる。	757%河川数海针画小目音	・「川の流れ、その由来と行方を知ろう〜多摩川流域水 流実態解明プロジェクト 行動指針/計画〜」のとりまと めを実施。	
(も少安な調査 を行うはか、乗吊海水時や河川とのか	河川水の適正利用に関する 技術・システムの調査・研究 及び水源手当のための調査	流実態解明プロジェクト 行動指針/計画~」のとりまと	
	た総合的流水管理対策の立	・「川の流れ、その由来と行方を知ろう~多摩川流域水流実態解明プロジェクト 行動指針/計画~」のとりまとめを実施。	-
また、これにかかわる <u>性・日・子・氏の収組に対して</u> 接続的か古塔 を行う	健全な水循環系実現に向けた総合的流水管理対策の立 案及びそれに係わる支援		・健全な水循環系の実現に向けた検討に着手ところであり、そのなかで支援体制等についても今後検討を行う。
	水循環系の実態及び各種研 究成果の広報	・京浜河川事務所ホームページにおいて、水流実態解明 プロジェクトに係わる項目を掲載。	-

第3項 河川環境の整備に関する事項

本文	キーワード		整備に着手できない理由
等、継続的な環境モニタリングを実施し、生態系等の 自然の営みについて知識を深め、新しい知見を踏まえな	河川水辺の国勢調査等の継 続的な環境モニタリングの実 施とそれによる整備内容の 見直し	・平成18年度も、水辺の国勢調査(魚類・植生・利用実 態)を実施し継続的なモニタリングを実施。	-
また、「多摩川流域リバーミュージアム」の実現に向けて、自治体、市民団体等と連携し、 <u>川の一里塚等の人と川のふれあい関連施設、市民活動拠点及び情報伝達体制の整備</u> を行うとともに、 <u>自然学習や文化芸術活動等の支援</u> 、並びに <u>自然、歴史・文化及び防災等の情</u> 和の収集・提供を可能とするシステムの構築を行う。	「多摩川リバーミュージアム」 の実現に向けた各種対策の	・「多摩川流域リバーミュージアム」の取り組みとして ITを活用して流域情報を収集・提供するシステムを運 営。	-

(1)生態系保全回復関連対策

(1) <u>生態系保全回復関連対策</u> 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
多摩川らしい豊かな自然環境を保全・回復するため、 河道内においては 多自然型川づくり を推進する。	多自然型川づくりの推進	・護岸工事などを実施する際には、魚巣ブロック、かごマットの採用や、現地の河床材料を利用した護岸の覆土などに積極的に取り組んだ。 ・今後は、「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」への方向転換が必要。	登権に有すくこ ない 注田 -
このため、 ワンド等の整備 や生物の生息・繁殖地となる <u>瀬と淵及び河原などの確保</u> に努める。	ワンドの整備及び瀬淵、河原 等の生物の生息・繁殖地の 確保	・多摩川河口域の健全な河川環境の保全・復元手法構築 のため、植物の生育環境の復元手法についての基礎調査 を行った。	-
また、魚類等の生息環境の連続性を確保するため、堰等において 魚道の設置 を行う。	魚道の設置による生物の生 息環境の連続性確保	・JR中央線の護床工の魚道(ハーフコーン型)を整備完 了。 ・河口~小河内ダムまでの横断工作物の魚道が完成。	-
さらに、グランド等が連続する人工系空間においては 利用区域の境界部等にその場の潜在能力に対応した <u>樹</u> 木や草木を植栽した連続的な緑地帯を創出し、生態系 の回復を図る <u>河川敷生態系回廊(以下、「リバービオ</u> <u>コリドー」という。)の整備</u> を占用者と一体となって 実施する。	リバービオコリドーの整備	-	・方法論も含め、沿川自治体や占用者と議論する場が 必要。
加えて、生態系保持空間においては、必要に応じ河川 生態学術研究地区(福生市永田地先)のように、 本来 の生態系の回復に向けた対策 を行う。		・永田地区において再生礫河原のモニタリングを継続。 ・外来種対策手引き書(案)を作成。 ・魚道の遡上調査を実施。	-
河川は流域の中で多様な生物を育む基軸を構成していることから、流域の森林田畑や「水と緑のネットワーク」等と有機的に結ぶ ビオトープネットワーク形成の 支援を図ることによって、流域の生物多様性の回復を 図る。	ピオトープネットワーク形成 支援		・多摩川流域の都市域を良好な都市環境に保全・整備 していく必要があり、計画実現までには推進体制の確 保、管理方法の確立など様々な課題があるため、長期 的な視点に立って努力していく。
その対策にあたっては、 <u>地域住民、関係自治体及び関</u> 連機関等と連携して行う。	関係住民等の連携	・上記の整備にあたっては、地域住民や関係機関との意 見交換をふまえ事業を推進。	

(2)水環境関連対策

本文	キーワード		整備に着手できない理由
水環境関連対策については、多摩川が有すべき水量とその変動及び水質等の水流の実態を把握するよう努める一方、人と川がふれあえる多摩川を目指して、必要に応じ河川浄化施設や底泥浚渫等の水質改善対策及び水量確保対策を実施し、良好な水量とその変動及び水質(底質を含む)の実現を目指す。	水質改善対策及び水量確保対策の実施	・「川の流れ、その由来と行方を知ろう~多摩川流域水 流実態解明プロジェクト 行動指針/計画~」のとりまと めを実施。	-
また、内分泌攪乱化学物質やダイオキシン類等の <u>人</u> 体及び生物に影響をおよぼす化学物質や病原性微生物 等についても関係機関と連携して調査・研究 も し、必要な対策を実施する。	人体及び生物に影響をおよ ぼす化学物質や病原性微生 物等の調査・研究	・ダイオキシン類は平成11年度、環境ホルモンは平成10 年度から調査を継続実施。	-
さらに、東京湾の汚濁対策として関係機関と協力し <u>東</u> 京湾への流入負荷量の削減を図る。	東京湾への流入負荷量の削減	-	・汚濁負荷の削減に向けて、下水道計画などの整備計 画と調整・役割分担について効率的な役割分担につい て調整する。

(3)人と川のふれあい関連対策

(3)人と川のふれあい関連対策 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
多摩川を訪れる人々の、水辺への経路を確保するため、 「岸辺の散策路」 を整備するとともに、約2km間隔で堤防上に緑陰や水洗トイレ等を有した平場を設け 「川の一里塚」 として整備を行う。			
「川の一里塚」については、平常時には来訪者の憩いの場として人と川のふれあい増進に資するだけでなく、 洪水発生時などの 緊急時には水防資材や関連機材の確 保 の場 として利用する。	水防資機材の確保の場	-	・第二種側帯の整備と合わせ、関係自治体と連携を図 り、必要に応じ整備を推進していく。
また、「岸辺の散策路」や「川の一里塚」等を <u>「水</u> <u>と緑のネットワーク」</u> として位置づけ、流域内の公 園・寺社等の <u>緑地や水路等と有機的に結びつける</u> こと により、中・下流域の都市部における自然豊かな環境と 人のふれあいを増進する。		-	・水と緑のネットワーク計画については、多摩川流域 の都市域を良好な都市環境に保全・整備していく必要 があり、計画実現までには推進体制の確保、管理方法 の確立など様々な課題があるため、長期的な視点に 立って努力していく。
「渡し」の復活 を支援する。	地域の交流	・「丸子の渡し」跡地におけるNPO法人多摩川エコミュージアム主催による渡しの体験を、関係機関と連携し、支援。 ・NPO法人多摩川エコミュージアム、川崎市と定期的に協議会を実施。	-
加えて、 <u>地元自治体等からの桜づつみの整備</u> に関する要望に対しては、堤防の強化及び第二種・三種側帯整備とあわせて、良好な水辺環境の創出の観点から対処する。	良好な水辺環境の創出	-	・関係自治体からの要請を受け、治水上の整理(堤防 強化等)をしつつ、側帯整備と合わせ検討する。
流域の都市化の進展等に伴い、多摩川は都市に残された貴重な散策、レクリェーションなどの場となっており、流域の内外を問わず多くの人々に利用されている。			
首都圏に残された広大な水と緑の空間である多摩川に対する利用者のより一層の利便性を向上させるために、河道外において 河川利用者用の駐車場 (以下、河道外駐車場という。) の確保 に努める。	河道外駐車場の確保	-	・候補地については、関連機関や機能空間区分との整 合を図りつつ場所の検討を行う。
また、多摩川の自然環境や水辺を地域の <u>子供たち</u> や人々の <u>遊びや自然学習の場</u> として活用できるよう、極力自然を生かした水辺の整備を行うとともに、 <u>「水辺</u> 再発見プロジェクト」等の啓発活動をはじめとして、ふれあい増進に関わる市民活動の支援を行う。	自然環境の学習と市民活動 の支援	・平成18年度までに、登録2校(福生、多摩川源流こすげ)、うち開校8校(狛江、かわさき、とどろき、府中、潤徳、滝合、あきしま、せたがや)。また、4校(稲城、八王子浅川、立川、青梅)が活動を開始し、登録・開校に向け準備を始めている。	-

(4)福祉関連対策

本文	ー キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
少子高齢化社会の到来を踏まえ、利用者、福祉関係機関、地元自治体等と連携調整を図りながら多摩川の諸施設に係る点検や利用実態モニタリングを行い、利用ニーズと合致した バリアフリー化 を推進する。			・関連機関や機能空間区分との整合を図りつつ、方法論や場所の検討を行う予定。
特に、高齢者、障害者や車椅子利用者などが容易に川に近づけるよう 緩傾斜坂路(スロープ) の整備を行うとともに、多摩川を訪れる全ての利用者が容易に利用できる構造の水洗トイレの整備や、河道外駐車場において 高齢者、障害者等 が優先して駐車できる区画を確保する。	高齢者·障害者·車椅子利用	_	・関連機関や機能空間区分との整合を図りつつ、方法 論や場所の検討を行う予定。

(5) 歷史的文化関連対策

(5 <i>)</i> 歴史的又化関連 刈 束			
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
多摩川や流域に関する歴史・文化等に関連する様々な情報の収集・提供を行うとともに、現地において多摩川への来訪者が容易に情報を得ることが出来るよう歴史 や文化を解説した看板等の整備を行う。	歴史文化情報の提供	・地域史家の方をお呼びして、「多摩川シンポジウム」 を実施。これらをとりまとめパンフレットで広報すると ともに、京浜河川事務所のホームページでも公開。	-
あわせて、多摩川誌やその他の流域に関わる様々な文献情報などを集めた 電子図書館の構築 を進めるとともに、技術革新が著しい高度情報機器を媒体として積極的にこれらの情報の提供を行う。	ラス図書館の堪能	・平成18年度も引き続き、京浜河川事務所のホームページで流域の様々な情報を収集・提供するとともに、多摩川流域リバーミュージアムのホームページの充実を図る。	

第3節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川の維持のうち、洪水、高潮等による災害の防止又は軽減にあたっては、国土保全管理情報を適確に収集する他、河道、河川敷、堤防及びその他の河川管理施設等を良好な状態に保ちその本来の機能が発揮されるよう、日頃からの河川巡視等やモニタリングにより異常の早期発見に努め機動的な維持管理を行うとともに、河川管理施設等の機能の維持更新を計画的に行う。		・平成18年度も引き続き、河川管理施設等を良好な状態 に保つため、河川巡視を行う。	-
また、 <u>河川管理施設</u> については、操作規則、操作要領 等に基づき <u>適切な操作を行い、機能の維持</u> に努める。	河川管理施設の機能の維持	・平成18年度も引き続き河川管理施設については、操作 規則、操作要領に基づく管理を実施。	-
一方、洪水、高潮等の発生により堤防等の河川管理施設が被災した場合には、二次災害を防止するため、応急的に機能回復を図り出水期終了後に速やかに本復旧を行うとともに、平常時においても、被害の軽減のため洪水、高潮体制の充実に努めるほか、 関係自治体と連携して 八 ザードマップの作成 ・頒布等の情報提供体制の充実を図る。		・平成18年9月 八王子市ハザードマップ公表 ・平成19年1月 福生市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 昭島市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 狛江市ハザードマップ公表 ・平成19年3月 多摩市ハザードマップ公表 ・多摩川水防連絡会を実施し、沿川自治体と情報交換を 行った。	-
また、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに河川環境の保全にあたっては、現況の流水機能の劣化防止や渇水調整体制の維持に努めるとともに、河川敷の公有化などによる河川の秩序ある利用形態、河川のもつ人と川との豊かなふれあい機能等を維持する。		・「川の流れ、その由来と行方を知ろう~多摩川流域水流実態解明プロジェクト 行動指針/計画~」のとりまとめを実施。	-
さらに、これまでの歴史的背景を踏まえ、河川管理者、関係機関、自治体、学識経験者、自治会及び市民団体等が、各々の責務を認識し、 有機的に連携 を図りながらきめ細かな河川管理を目指す。	有機的な連携	・平成18年度も引き続き、リバーシビックマネージャー 制度を継続させ、各出張所単位で、分科会を1~2回開 催。	-
なかでも、川に関するモニター(監視)、レンジャー (警備)、レスキュー(災害時の救出)機能を担うボランティアを実施する市民に対して、その活動を支援する制度などを充実し、「協働の維持管理」を推進する。	各関係機関の責務の認識・ 連携	・平成18年度も引き続き、リバーシビックマネージャー制度を継続させ、各出張所単位で、分科会を1~2回開催。	-

第1項 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 (1)国土保全管理情報の収集・提供システム

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由	
河川の維持を適切に行うため、河川現況台帳の整備・保管や水理、水文、水質等の情報をはじめとして、土地利用や土砂の移動状況などの国土保全管理に関するデータの収集を行う。	国土保全管理対策	・平成18年度も引き続き、水理・水文・水質等のデータ観測を実施。	-	
また、データの収集にあたっては、観測施設を適切に配置するとともに観測手法についても高度化を図る。	観測手法の高度化	・非常時に備え、7箇所でCCTVカメラネットワーク強化を実施。	-	
さらに、 人工衛星によるモニタリング 等、高度化する技術を活用しつつ、時代に応じた収集提供システムを早急に整え、地域住民にこれらの情報を提供する。	情報収集提供システムの確立	-	・高度化する技術等の変化を確認しながら、必要に応じ たシステムの整備を行っていく。	

(2)河川の形状機能

(2)河川の形状機能			
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川監理員等により、河川区域、河川保全区域、河川予定 地及び高規格堤防特別区域における行為の状況等について、 日々の巡視 を行い <u>状況把握</u> をするとともに <u>適宜モニタリング</u> を実施する。	日常の巡視	・平成18年度も引き続き、河川巡視を実施。	-
また、河川パトロールカーや河川巡視用バイク等の巡視用機 材についても適切な管理を施す。	河川巡視	・平成18年度も引き続き、河川巡視を実施。	-
なお、河川巡視にあたっては、河川監理員の補助を的確に行 う資質を有する河川巡視員の確保に努める。	河川巡視	・平成18年度も引き続き、河川巡視を実施。	-
洪水発生等により河道内に <u>堆積</u> した <u>土砂</u> については、モニタリングの結果等により洪水の安全な流下に支障となる場合に瀬・淵など環境上の影響にも配慮して <u>適正に掘削、浚渫</u> を行う。	河道浚渫対策	-	・定期縦横断測量等のモニタリング結果により、必要に 応じて適正に掘削、浚渫を行う。
また、河道内の樹木については、その繁茂が洪水の安全な流下の支障となる場合においては、周辺の植生や 生物 の生息、生育環境に十分配慮した上で伐採を行う。	植生管理		・新たな視点の取り組みの『土砂の移動に着目した河道 管理の実現』に向け検討を進めており、二極化の解消な どと合わせて必要に応じて対策を行う。
河床が安定していることから、河床の異常な低下を防止し環 境を保全するため砂利採取規制を全川で継続する。	砂利規制	・平成18年度も引き続き、砂利採取規制を継続。	-

(3)河川管理施設の機能

(3)河川官埋施設の機能 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
堤防や水門等の <u>河川管理施設</u> については、洪水(内水を含む)及び高潮に対する所要の機能が発揮されるよう維持修繕及び補修を行うと共に、他の工作物の管理についても審査・指導を適切に行う。	河川管理施設の 維持修繕対策	・平成18年度も引き続き、河川管理施設については、機能が発揮できるよう適切なメンテナンスを実施。 ・許可工作物についても、履行検査等を行い適切管理が行われるよう指導。 (平成18年度も継続して実施)	
さらに、 堤防等の除草 については、堤体の機能の維持 等の観点から適宜作業を行う。	除草	・平成18年度も堤防の除草を引き続き実施。	-
洪水、高潮及び地震等による災害に伴う河川管理施設の被害については適宜、復旧対策を行うとともに、 <u>災害</u> 後の適切なモニタリングを実施し必要に応じ河岸維持管理法線の見直し等を行う。	災害後の復旧対策と モニタリング	-	・河道内の形状をモニタリングするため直轄管理区間の定期縦横断測量を実施している。 (基本的に、出水がなければ2年に1度実施。前回: 平成17年度、次回:平成19年度実施予定) ・空中写真による河道現況の把握を行っている。 (基本的に、出水がなければ2年に1度実施。前回: 平成17年度、次回:平成19年度実施予定)
加えて、旧来から受け継がれてきた 伝統的河川工法 により設置された河川管理施設については、 <u>必要性</u> を その都度、 <u>吟味した上で適切に保全</u> を行う。	伝統的河川工法の検討	-	・保全の必要性が生じた場合に、歴史的価値を勘案のうえ対応を行う。
河川管理施設の効果が最大限に発揮されるよう水位、流量、雨量等を確実に把握するとともに、的確かつ迅速に、操作規則・操作要領に定められた方法に基づく適切な操作を行い、河川巡視による適切な操作の確認を実施する。他の工作物についても適切な操作を行うよう審査・指導を行う。	操作観測・要領の 適切な実施	・二ヶ領宿河原堰など操作規則・操作要領が定められている河川管理施設はその方法に基づく適切な操作を行う。 ・許可工作物についても、履行検査等を行い適切管理が行われるよう指導。	-
また、施設操作にあたっては、的確に行う資質を有する操作員の確保に努めるとともに、その 技能の保持向 上を図る。		・平成18年度も引き続き、十分な実務経験及び知識を有する操作員を確保し、また二ヶ領宿河原堰などについて操作講習を実施。	
さらに、情報機器の発達に伴って <u>遠隔操作システム</u> を補完的に整備する。	遠隔操作システムの確立	・非常時に備え、7箇所でCCTVカメラネットワーク強化 を実施。	-

(4)洪水・高潮対策の体制

本文	ー キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
破堤等を未然に防止し河川管理施設の機能の維持に資	1 ,	・注意体制3回、異常潮位への対応として警戒体制に1回入った。 ・重要水防箇所を総合的に見直しを行った。	
さらに、出水時には、洪水予報を気象庁と共同で発表するとともに、水防活動が必要と判断した場合には、基準水位観測所ごとに的確な水防警報を発令し、水防活動の実施を指示する。	水防必要箇所の強化と水防	・注意体制3回、異常潮位への対応として警戒体制に1回 入った。	-

(5)広域防災機能

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川敷の避難空間としての機能を維持するとともに、 広域防災対策として整備する 地域防災活動拠点 (水防	広域防災対策	・緊急用河川敷道路は、川崎市大師河原地先452m・川崎市鈴木町地先170m・平瀬川橋梁一箇所の整備を完了。 ・大師河原河川防災ステーションの平常時管理は川崎市を連携して行う。	
また、災害時の 緊急用船着場への航路確保 のため、河口から多摩川大橋の区間については、災害復旧に用いる船舶の規模にあわせ現状の河床形状を勘案し、必要な航路幅と維持管理河床高を適正に維持管理する。	緊急用船着場への航路確保	-	・航路部分の河床を定期縦横断測量などで確認しなが ら必要に応じて対応を行う。
さらに、地震発生後の防災用水として、関係機関と連携し、多摩川の <u>河川水の有効活用</u> に努める。	防災用水の活用	-	・大規模な地震が発生した場合は、必要に応じて関係 機関と連携し活用に努める。
なお、関係機関と連携して防災救命技術・システムの開発、普及に向けた支援対策を行うともに、災害時に個人や地域の団体が自ら判断して互いに協力し活動できる自助互助システムの構築支援を図る。	自助互助システムの構築	-	・各関係機関と調整を図りながら検討を進める。

(6)情報システム

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
所管専用通信網及び光ファイバネットワーク等を用いた情報通信機能を活用し、的確な水防、警戒避難及び復旧に資するため 災害時の即時対応システムを構築 し、維持更新していく。	情報通信機能の活用	・非常時に備えて7箇所でCCTVカメラネットワーク強化を実 施。	-
なお、情報管渠等を通信事業者等に開放し、情報通信網 の基盤整備に貢献する。	情報通信網の基盤整備に 貢献	・情報管路を多摩川で約48km、浅川で約12kmを一般に開放。 ・さらに、光ケーブルの芯線についても一部開放。	-
また、インターネット等を積極的に活用した 多言語に よる防災情報提供システムを構築 し、より多くの地域 住民へ情報伝達を行う。	多言語による防災情報の 提供	-	・多言語による防災情報提供を含めた、広報戦略 (手法)を現在検討している。
さらに、関係機関や地域住民等に対して行われる災害 時の 避難方策等の防災教育を支援 する。	防災教育支援	-	・各関係機関と調整を図りながら検討を進める予定。

第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、並びに河川環境の保全に関する事項 (1)流水機能

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
流水機能については、現況の流水機能の劣化を防ぐために河川管理施設だけでなく他の工作物等も含めた既存の施設等を積極的に活用して 適切な水量と水質 (底質を含む)の確保とその維持保全を目指す。	流水機能の維持対策	-	・必要性が生じた場合、施設管理者など各関係機関とニーズ等の調整 を図る予定。
また、 水質汚濁の改善 のため、河川浄化施設の機能の維持に努め、必要に応じ施設更新を図っていく。	浄化施設の機能維持	・平成18年度も引き続き河川浄化施設の適切なメンテナンスを実施。	-
一方、水質事故等の 緊急時に迅速に対処 するため、水質自動監視装置の増設や平常時の河川巡視員による日々の監視の徹底に努めるとともに、万一の油流出等の水質異常発生時には、「関東地方水質汚濁対策連絡協議会」に参加する都県、政令市等の関係機関と連携し、被害の拡大防止に努める。	水質汚濁·水質事故対策	・平成18年度も引き続き河川巡視による監視を徹底。 ・RCMの方からの通報及び多摩川河川相談室に対しての一般からの通報により、早期に発見し迅速に対処した場合もある。(各年適宜実施)	-
さらに、水生生物の生息・繁殖環境の保全のため、水の流れ等の連続性を保つよう河川管理施設等の適切な維持管理に努めるとともに、他の工作物に関する河川法の許認可にあたっては、水の流れの連続性の確保について指導する。	生物保全の観点からの 流水維持	-	・必要性が生じた場合には適切に指導する。

(2) 渴水調整体制

(2) 渴水調整体制	+ 5 1	五世 46 左京中长 4 日	サルトディッとかい四十
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川流量が減少し渇水対策が必要となった場合の情報 提供や情報伝達等について、関係機関や 水利使用者等 と連携して体制を構築 し、被害の軽減に努める。	渇水調整体制づくり	・人員配置等、体制の見直しについて検討を行った。	-
このため、平常時から河川管理者及び水利使用者等との間において、情報、意見交換を定期的に行うために設置された <u>「多摩川水系利水関係者連絡会」を活用</u> し、適切な低水管理及び円滑な水利使用について対処していく。	多摩川水系利水関係者 連絡会の活用	-	・適宜活用を行う。
また、渇水に強い社会をつくるため、水を大切にする 節水型社会や水資源有効活用型社会に向けて 等と一体となって取り組む。		-	・適宜取り組む。

(3)秩序ある利用形態

(3)秩序ある利用形態	+ - 1	亚代40年度安佐持口	あ供に学工でもかいです
	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川法に基づく占用許可に関しては、河川利用を計画的に行うために8つの機能空間の内容と性格を遵守し、施設管理者及び 占用者に対して許認可時に適切な指導 を行う。	占用者に対する適切な指導	・占用者等に対し、許可申請時に河川環境管理計画の考 え方を指導。	-
人工系空間の占用許可に際しては、多摩川の 自然環境 に配慮した秩序ある利用 を図っていくため、下記の4つ の原則に従った審査・指導を行う。		・占用者等に対し、許可申請時に河川環境管理計画の考え方を指導するとともに、新たな許可については自然環境に配慮した秩序ある利用を図るための4つの原則に基づき、審査・指導を行う。	-
一方、自然系空間及び河岸維持管理法線より澪筋側の空間においては、河川法に基づき車両等の乗り入れを禁止若しくは大幅な制限措置を講ずるとともに、生態系保持空間においては、植生等の保全や学術研究目的等以外での人の出入りを規制する等の管理方針に基づき的確な利用に供するよう指導する。	秩序ある利用形態に向けた 指導充実	・占用者等に対し、許可申請時に河川環境管理計画の考え方を指導するとともに、新たな許可については自然環境に配慮した秩序ある利用を図るための4つの原則に基づき、審査・指導を行う。 ・自然系空間は、自然空間の管理方針に基づき、自然環境を保ち、貴重生物種の保全対策を行う。	-
また、自然系空間及び 河岸維持管理法線より澪筋側 の空間において占用許可し利用させる場合は、各占用 者に対し 自然環境への配慮を義務付 けるとともに、状 況に応じて代償措置や動植物の保全対策の条件を付す。	自然環境への配慮の義務付	・河岸維持管理法線より澪筋側の空間における占用許可 では、自然環境への配慮事項について指導。	-
不法占用・不法行為については、洪水を安全に流下させる上での阻害となるなど防災上の観点も踏まえ関係機関と協力しつつ早期の是正に努める。また、水面の利用に当たっては、秩序ある利用を維持していくため、利用標識板の設置を含めた水面利用の調整を図るとともに、秩序ある水面利用の支障となる不法放置船舶等に対する対策を自治体、関係機関等と連携して推進する。	 不法占用·不法行為に対す	・羽田地区における不法係留に対し、簡易代執行により 44隻撤去。 ・今後も適宜対策を検討。	-
さらに、河川敷での野宿生活者(ホームレス)の増加に対しては、中央省庁、関係自治体が一体となって設立した「ホームレス問題連絡会議」での動向を踏まえながら、関係機関と協力し適切に対処していく。	ホームレス対策	・中下流部では、関係機関と合同で現地の確認を定期的 に実施し、さらに多摩川下流部では、関係機関と意見交 換を行いながら対応を検討中。	
加えて、首都圏に残された広大な水と緑の空間である 多摩川を利用する 人々の増加に伴い水難事故が多発 し ていることに対処するため、河川管理者並びに、沿川自 治体、警察署、消防署等からなる「多摩川水難事故防止 協議会」を設置運営し、防止に努める。	水難事故対策	・関係機関と多摩川下流水難事故防止協議会を設置し、 その対応を検討。 ・さらに、パンフレットを作成配布し、市民への啓発活 動を実施。	-

(4)河川美化体制

<u> </u>	1		
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川美化のため、河川愛護月間やクリーン作戦等の河川美化活動を通してゴミの持ち帰りやマナー向上の啓発を行うとともに、ボランティアを活用した監視制度や反則金制度の導入、及び不法投棄を発見した場合の円滑な現状回復方策など不法投棄の未然防止のために関係自治体と連携して対策を検討していく。	河川美化活動の推進	・沿川自治体と連携を図りながら、引き続きクリーン作戦を実施。	
近年河川敷における仮設小屋の設置や 廃棄物の放置 等が増えつつあり、流域住民からは、河川景観上、また 衛生上の観点からその対策を求められているため、適切 に対処していく。	廃棄物対策	・出来る限り河川敷に不法投棄されたゴミなどを引き続 き処理。	-

(5)人と川のふれあい機能

(5)人と川のふれあい機能	キーワード	亚代40年度空旋项目	数供に差毛できない理由
本文 多摩川を利用する人々が快適に河川を利用できるよう設置された「岸辺の散策路」、「川の一里塚」等をその機能が確保されるよう、自治体、市民団体等と連携し、適正に維持管理を行う。		平成18年度実施項目 ・快適に河川を利用できるよう設置された「岸辺の散策路」や「川の一里塚」が機能を確保されるよう維持管理を行う。	
また、利用者施設標示に ユニバーサルデザインを導入 し、万人に利用しやすい多摩川ふれあい関連施設となる よう配慮する。	人と川のふれあい機能の充 実	・緩傾斜坂路に点字ブロックを設置	-
さらに、子供たちだけでなく地域の人々の多摩川の自然 環境や水辺を利用した 総合学習の支援 を行うため、自 然を生かした水辺や施設の維持・保全に努める。	人と川のふれあい機能の充 実	・平成18年度も引き続き水辺の楽校施設の維持・保全を実施。	-
河川におけるふれあい活動を <u>阻害している要因を除</u> 	阻害要因の除去	・平成18年度も引き続き、リバーシビックマネージャー 制度を継続。	-

(6)福祉関連施設の機能

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
高齢者・障害者や車椅子利用者などが容易に川に近づけるよう整備した 緩傾斜坂路(スロープ)や水洗トイ レなどの諸施設について、その機能を確保するため、 適切な維持管理を図る。	福祉関係施設の機能の維持	・緩傾斜坂路の機能を確保するための適切な維持管理を 引き続き行う。	-
また、河道外駐車場に設置した 高齢者、障害者等が優 先して駐車できる区画の確保がなされるよう関係機関 や市民ボランティア等と連携して対処する。	河道外の駐車場	-	・周辺の利用状況等を考慮しながら、調整を図ってい きたい。

(7)河川環境モニター機能

(/) 冽川環境セーダー機能 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
環境モニタリングについては、これまでも <u>「河川水</u> 辺 の国勢調査」等により実施 してきたが、今後も更な る調査の実施を行う。	河川管理データ収集と 新たな手法の確立	・平成18年度も、水辺の国勢調査(魚類・植物・利用実態)を実施し継続的なモニタリングを実施。	-
特に、これまで調査実績が少ない 内分泌攪乱化学物質 等に対して、モニタリング手法などの検討 を行い、環 境データの収集に努める。	河川管理データ収集と 新たな手法の確立	・平成18年度も引き続き、環境ホルモン(内分泌撹乱化 学物質等)の調査を継続実施(平成10年度より)。	-
また、洪水発生後において、カワラノギクなどの貴重 種を含めた自然環境の変化を把握するため、 <u>河川環境</u> カルテによる点検を実施する。	河川管理データ収集と新たな手法の確立	・平成18年度も、水辺の国勢調査(魚類・植物・利用実態)を実施し継続的なモニタリングを実施。	-
さらに、既存の河川管理施設、許可工作物に関して環境面から点検を実施し、 <u>生物の生息・生育環境に著し</u> 〈阻害となる構造物 については、必要に応じ施設管理 者に対して <u>適切な対処</u> を行うよう指導する。	河川環境モニタリングの	・河川管理施設については、環境面からの点検を継続実施。 ・平成18年度も引き続き、許可工作物については、出水 期前に実施する履行検査でも環境面からの点検を実施。 ・平成18年度も引き続き、魚道整備(JR中央線護床 工)、維持管理のための遡上調査等を継続的に実施。	
加えて、市民ボランティアによる 河川環境モニタリン グの実施 に向けた支援を行う。	河川環境モニタリングの実施	・市民と共同で水生生物による簡易水質調査を実施。 ・平成18年度には、多摩川5箇所、浅川1箇所で「川の通 信簿」を実施。	-
環境モニタリング等により得られた調査結果により、 更なる 環境データの充実 を図るとともに、GIS化等によ リデータベースの整備を行い、インターネット等を活用 した 情報提供体制を充実 させる。	環境データの情報提供	・平成18年度も引き続き、多摩川流域リバーミュージア ムのホームページで市民水辺発見情報を公開。	-

(8)河川環境

(8)河川環境 本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
河川環境の保全のために、河岸維持管理法線及び河川 敷や水面の区分の設定を適切に行う。	河岸維持管理法線、機能空 間区分及び水面利用計画		
なかでも、河川敷の自然環境の保全のため、人工系空間については、裸地化を極力さけるとともに、生態系及び水質へ悪影響を及ぼす化学物質等を極力使用しないよう必要な措置を講じる。		・河川環境管理計画の機能空間区分に基づく管理方針で 河川の環境管理を継続実施。	-
一方、自然系空間及び河岸維持管理法線より零筋側の空間においては、車両等の乗り入れの防止や、生態系保持空間における多様な生物及びその生息・生息環境の保全や学術研究目的等以外での人の出入りを制限する等、地域住民や関係自治体と一体となって措置を講じる。	生態系保持空間等の 河川環境対策	・河川環境管理計画の機能空間区分に基づく管理方針で 河川の環境管理を継続実施。	-
このうち、生態系保持空間については、河川法に基づく「動植物の生息又は生育地として、特に保全する必要があると認めて河川管理者が指定した河川区域内の土地の区域」に指定するなどして、自然環境の保全を図る。	生態系保持空間等の 河川環境対策	-	・ 空間のルールづくりなどの検討を行っていく予 定。
なお、自然系空間及び河岸維持管理法線より澪筋側の空間において占用許可を行う場合は、各占用者に対し自然環境への配慮を指導するとともに、状況に応じて代償措置や動植物の保全対策等、環境保全上必要な措置の実施を求める。	生態系保持空間等の 河川環境対策	・河川環境管理計画の機能空間区分に基づく管理方針で 河川の環境管理を継続実施。	-
さらに、学術上又は希少性の観点から重要な種・群落、注目すべき生息地を含めた生物の多様な生息・生育環境を保全するため、 河道内において、シマドジョ ウ、アブラハヤ等の生息地となる瀬と淵及びカワラノギク、カワラバッタ等の生存する河原等が維持されるように努める。	貴重種の保全対策	・魚道整備の推進と整備済み魚道の適正管理を指導。	-
一方、本川及び支川等において、魚類等の移動に配慮するなど良好な環境の保全を図る。	貴重種の保全対策	・関係機関とともに魚道整備を推進。	-
このため、既存の堰等に設置された魚道やワンドなどについては、その機能が十分発揮されるよう適切に維持管理やその指導を行う。		・魚道整備の推進と整備済み魚道の適正管理を指導。	-
加えて、流域の良好な自然環境を保全するとともに <u>生物多様性を保全</u> していくため、地域住民の適切な活動を支援するとともに、流域の森林田畑や都市部に形成される <u>「水と緑のネットワーク」の保全</u> を支援する。	生物多様化の保全対策の	-	・河川内の連続性を優先的に図りながら、周辺の利用 状況とを考慮しながら調整を行う。

(9)河川景観

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
多摩川らしい河川景観を継承していくため、多摩川の特徴を美しい調和の中に浮かびあがらせ、多摩川らしさの代表となっている <u>多摩川八景、多摩川50景などの景観の保全</u> に努める。			・新たな視点からの取り組み『多摩川の景観向上に向 けた取り組み』で記載しているように、今後検討を 行っていく予定。
特に、下流部においては多摩川が都市景観の重要な構成要素であること、上流部においてはそのほとんどが <u>秩</u> 父多摩甲斐国立公園区域であることに十分配慮する。			・新たな視点からの取り組み『多摩川の景観向上に向 けた取り組み』で記載しているように、今後検討を 行っていく予定。

(10) 多塵川の文化育成機能

(10)多摩川の文化育成機能			
本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
多摩川と文化の関わり合いについては、万葉集に詠まれるなど人とのかかわりが古くから記されている。	流域文化		
室町時代には、合戦場として軍記物語 「太平記」 に記され、江戸時代には、平賀源内が戯曲化した歌舞伎浄瑠璃 「神霊矢口渡」 の舞台となるとともに、安藤広重が描いた浮世絵 「東海道五十三次」 に登場している。	流域文化		
また、東京都の無形民俗文化財に指定されている祭礼の「水止舞」が受け継がれている。さらに、現在においても多摩川において撮影された映画等も多く見受けられるなど 多摩川は流域の文化と深く関わっている 。			
このため、 <u>「多摩川流域リバーミュージアム」</u> や多摩川週間等を通じ、市民が多摩川の文化財としての価値を見いだすことが出来るよう啓発活動を推進し、多摩川を介した 文化の育成支援を行う とともに、「有吉堤」等文化資産の発掘と継承を行う。	文化育成支援対策	・平成18年度も引き続き、多摩川シンポジウム「多摩川 を歩く」を開催し、多摩川の歴史・文化を紹介。	-

(11)住民等との協働システム

本文	キーワード	平成18年度実施項目	整備に着手できない理由
市民団体等が多種多様な目的をもって活動している多摩川において、市民団体、非営利機関(NPO)、地域住民及び市民ボランティア等の協力を得て河川の維持管理を行うため、市民等の主体的活動を可能とする市民活動拠点施設の維持に努める。	市民と協働するための活動 拠点施設の維持	・川の志民館、かわせみ館、二ヶ領せせらぎ館を行政・ 市民との協働により管理・運営。	-
また、河川管理者と地域住民を繋ぎ多様な主体の自主 的運営を司る人材育成の支援を図り、市民等の川での社 会貢献活動を支援していくとともに、川の左右岸や源流 から河口までの上下流の 住民及び自治体間の交流活動 及び上流部の 清流や森林のみどりの保全活動等に対す る支援 を行う。		・流域の市民活動について関係自治体と連携を図りつ つ、支援。	-

	美の洪水を治水の目標とする		- 0	- n	
項目	整備目標	既存整備	平成13~17年度実施	平成18年度実施	備考
道断面の確保対策	ŧ	•			
多摩川					
堰対策	5堰	-	1堰完了(四谷本宿堰)	1堰施工中(二ヶ領上河原堰)	
河道掘削	5区間	-	-	-	
築堤	右 13区間	-	1区間一部完了(戸手~古市場区間0.24km) 1区間一部施工(殿町~大師河原区間0.06km)	-	
	左 11区間	-	1区間一部完了(柴崎町~富士見町区間0.06km)	-	
陸閘対策	4箇所	-	1箇所(上丸子陸閘)	-	
樋門対策	左 18.0k(谷川排水樋管)	-	•	-	
高潮対策	右 5.6km(0.0k~5.6k)	0.2km(高さ確保済み)	一部完了(大師河原地区0.4km、中瀬地区0.3km)		
	左 2.5 km (3.1k ~ 5.6k)	2.5km(高さ確保済み)			
戋川 <u></u>					
床止対策	7箇所	1箇所完了(百草)	6箇所完了(長沼、湯殿川、西平山、山田川、新井、石田)	-	対策完了
河道掘削	2区間	-	1区間(下流部) 完了 1区間(中流部) 一部完了	-	
築堤	右 7区間		2区間一部完了(元横山町~元本郷町区間0.12km、南平区間0.07km)	-	L
	左 8区間	-	1区間完了(西平山(上流側)区間) 1区間一部完了(北野町区間0.03km)	-	
樋門対策	左 4箇所	-	2箇所完了(上村用水樋管、川北用水樋管)	-	
防の安全性向上対	 策				
多摩川					
堤防強化対策	直轄管理区間 (対策が必要となる区間で実施)	-	-	下記の高水護岸整備等を実施	過去の洪水実績等により漏水のおそれのある箇所及 侵食等に関した堤防の点検により必要となる区間
高水護岸整備	右 19区間	9区間(一部完了)	9区間一部完了 (殿町~中瀬区間0.26km、旭町~中丸子区間0.17km、天神町~諏訪区間0.47km、 溝口~久地区間0.42km、中野島~押立区間0.2km、押立~大丸区間0.31km、 関戸~落川区間0.5km、新井~万願寺区間0.1km、万願寺~栄町区間0.32km)	1区間一部完了 (旭町~中丸子区間:中丸子地区0.4km·上平間地区0.43km) 1区間一部施工中 (中野島~押立地区:布田地区0.1km·中野島地区0.15km)	
	左 15区間	8区間(一部完了)	5区間一部完了 (西六郷~田園調布区間1.04km、猪方~染地区間0.41km、染地~是政地区1.1km 矢崎町~錦町区間1.23km、柴崎町~拝島区間0.06km)	1区間一部完了 (矢崎町~錦町区間:四谷六丁目地区0.48km)	
漏水対策	左 2区間	-	-	-	
水衝部対策	右 21区間	-	1区間完了 (等々力区間) 10区間一部完了 (大師河原~中瀬区間0.34km、上平間区間0.4km、溝口~久地区間0.2km、 中野島~菅区間0.27km、押立~大丸区間0.58km、大丸区間0.3km、関戸区間0.74km、 一/宮~百草区間0.08km、新井~東常安寺区間0.84km、日野~栄町区間0.69km)	3区間一部完了 (鈴木町~小向町区間:鈴木町地区0.15km、一/宮~百草区間:落川地区 0.09km、 上平間区間:上平間地区0.4km・中丸子地区0.39km、) 1区間一部施工中 (中野島~菅区間:中野島地区0.16km・布田地区0.18km)	
F.III	左 21区間	-	8区間一部完了 (南六郷区間0.07km、西六郷~矢口区間0.46km、矢口区間0.17km、 野毛~玉川区間0.25km、猪方~染地区間0.49km、多摩川~押立町区間0.73km、 南町~谷保区間2.64km、錦町~柴崎町区間0.49km)	1区間一部完了 (西六郷~矢口区間:西六郷上地区0.2km) 1区間一部施工中 (多摩川~押立町地区:押立町地区0.38km)	
	土地外加 豆里				
堤防強化対策	直轄管理区間 (必要に応じ対策)	-	-	下記の高水護岸整備等を実施	必要性・緊急性・利用面・景観及び環境面等を総合して必要な対策を行なう
高水護岸整備	右 6区間	2区間(一部完了)	3区間一部完了 (新井~高幡区間0.3km、南平区間0.07km、元横山町~元本郷町区間0.12km)	1区間一部施工中 (長沼町~明神町区間:明神町地区0.17km・明神町下地区0.16km)	
	左 7区間	1区間(一部完了)	1区間完了 (西平山(上流側)区間) 2区間一部完了 (北野町区間0.03km、大和田町区間0.32km)	-	
水衝部対策	右 6区間	4区間(一部完了)	5区間一部完了 (石田~上田区間0.84km、堀之内~豊田区間0.01km、東平山~長沼町区間0.36km 、長沼町~明神町区間1.24km、元横山町区間0.12km)	1区間一部施工中 (長沼町~明神町区間:明神町地区0.17km·明神町下地区0.14km)	
	左 9区間	1区間(一部完了)	1区間完了 (北野町区間) 4区間一部完了 (石田~新井区間0.2km、西平山区間0.52km、長沼町区間0.11km、大和田町~中野上町区間0.64km)	1区間一部完了 (暁町~中野上町区間:大和田町七丁目地区0.16km)	
	I	I	(22 and classes of Lacidonesial Madamides and Manda (1.2) Table in regular	今後の災害の発生や調査結果及び施設管理者	

今後の災害の発生や調査結果及び施設管理者との協議等により、新たに河川工事が必要となる場合がある。

Ĭ	■ 目	整備目標	平成13~17年度実施	平成18年度実施	備考
総合	的な治水対策				
	害を最小限に抑える	対策			
情報伝達の充実 -		-	平成14年2月 多摩川浸水想定区域図の公表 平成17年7月 浅川浸水想定区域図の公表	平成18年9月 八王子市ハザードマップ公表 平成19年1月 福生市ハザードマップ公表 平成19年3月 昭島市ハザードマップ公表 平成19年3月 狛江市ハザードマップ公表 平成19年3月 多摩市ハザードマップ公表	
	CCTVカメラ -		多摩川本川 66箇所 浅川 9箇所	多摩川本川7箇所でカメラのケーブルネットワーク強化	
	河川情報板	-	3箇所で情 (二ヶ領せせらぎ館・JR/)	- 情報を提供 \王子駅前・JR川崎駅前)	
超退	进水対策	action5 スーパー堤防の整備	参照		
広垣	陇 災対策				
多	擎川				
	地域防災活動 拠点整備	河川防災ステーション 6箇所 水防拠点 15箇所	河川防災ステーション1箇所 施工中(大師河原) 鉄塔 1箇所(多摩川上流出張所)	河川防災ステーション1箇所 施工中(大師河原)	施行の場所、設置される河川管理施設等に
	樹林帯整備	日野橋より上流	•	•	ては、流域住民、自治体等と調整を図る。
	緊急河川敷道路	右 0.1k~46.2k	535m、坂路1箇所	鈴木町地先170m完了	
		左 1.5k ~ 46.3k	1734m、坂路2箇所	大師河原地先452m、平瀬川渡河橋梁上部工完了	
	緊急用船着き場	川崎市	-	-	施行の場所の詳細は今後検討
	情報通信機能	右 0.1k~61.8k 左 1.8k~61.8k	光ケーブル 約42k 情報コンセント 69箇所	-	
	二種側帯整備	直轄管理区間 (必要に応じ整備を実施)	-	-	高規格堤防整備完了区間は除く
浅	uj				
	地域防災活動 拠点整備	水防拠点 2箇所	-	-	施行の場所、設置される河川管理施設等に
樹林帯整備		直轄管理区間 (必要に応じ整備を実施)	-	-	ては、流域住民、自治体等と調整を図る。
	情報通信機能	直轄管理区間	情報コンセント 9箇所 -		
	二種側帯整備	直轄管理区間 (必要に応じ整備を実施)			
広	域防災機能		緊急船着き場2箇所、緊急用河川敷道路28km		
情	報システム		ホームページ·マルチコールなどITを活用した災害	害情報の提供。	

	既存河川管理施設の維持管理		
国土保全管理情報の 収集·提供	水位、雨量、流量など水文データを継続して計測。また、インターネッ	ットなどを通じて計測結果も公表。	
河川の形状機能	継続して河川巡視を行う。		
河川管理施設の機能	河川管理施設の操作を行う。		
洪水・高潮対策の体制	平成13年度 2回(注意)体制、そのうち1回警戒体制へ移行。 平成14年度 3回(注意)体制、そのうち2回警戒体制へ移行。 平成15年度 3回(注意)体制、そのうち1回警戒体制へ移行。 平成16年度 2回(注意)体制、2回とも警戒体制へ移行。 平成17年度 3回注意体制に入ったが、田園調布(上)観測所で指定水位を超えた程度で、洪水予報 の発令には至らなかった。	注意体制3回、 異常潮位への対応として警戒体制に1回移行	
洪水・高潮災害の復旧	平成13年 9 月 台風15号 多摩川13箇所 平成14年10月 台風21号 多摩川9箇所 浅川1箇所(南平) 平成16年10月 台風22号 多摩川5箇所	-	

on2 多摩川リバーミュ	ージアムの実現					
項目	整備目標	既存整備	平成13~17年度実施	平成18年度実施	備考	
生態系保全回復関連						
ワンド	直轄管理区間 ・自然環境の良好な保全, 回復が可能な場所 ・治水上問題のない場所 ・長期間保存可能な場所	1箇所 (上河原ワンド)	3箇所 (あきしま·かわさき·浅川滝合小)	-		
リバービオコリドー	直轄管理区間 グランド等が連続する人工系 空間において利用区域の空 隙部分 など	-	3箇所 世田谷区 1箇所 川崎市 1箇所 丸子通地区 1箇所	実施主体及び施行の詳細な場所については、は域付民、自治体等と調整を図る.		
魚道の整備	8箇所 他 直轄管理区間のうち、 対応等が必要となる箇所	-	6箇所(施工) 日野用水堰(右岸側)完了 羽村取水堰完了 白丸ダム完了 四谷本宿床止完了 八高線護床工完了 中央線護床工施工中 魚道技術レポート作成	J R 中央線護床工魚道完了	域住民、自治体等と調整を図る。	
本来の生態系の回復	生態系保持空間 (必要に応じ対策)		・永田地区において礫河原の再生とモニタリングを実	施		
水環境関連対策	-	-	action4 水流実態解明 プロジェクト参照			
人と川のふれあい関						
環境学習活動支援			TRM研修実施(4回) 活動支援(73回) 多摩川ふれあい教室運営	多摩川ふれあい教室運営 活動支援(夏休み多摩川教室・環境学習研修な ど)	多摩川での活動を支援するために活動プログラムの相談、講師の派遣、支機材貸出しを支援。	
			環境学習懇談会・環境学習交流会等を開催		学校教育におけるTRMの浸透を図るため流域の 学校教員との意見交換を開催。 学校教育者の現地での活動教材を作成。	
環境学習懇談会			環境学習教材(事例集、プログラム集、環境学習マップの作成)検	 於討作成、配布		
TRM現地情報拠点	11拠点	-	3拠点 (二ヶ領せせらぎ館・川の志民館・日野市かわせみ館	1)		
岸辺の散策路整備	46km	-	4.23km完了	0.225km完了(福生水辺の楽校) 0.713km施工中(田園調布地区)		
緑陰整備	71箇所	-	-	-	1	
川の一里塚整備	54箇所	-	1箇所	-		
渡しの復活支援対策	数力所	-	1箇所	1箇所	実施主体及び施行の詳細な場所については、 域住民、自治体等と調整を図る	
水辺の楽校基盤整備	16箇所	-	・2箇所整備完(狛江、かわさき) ・3箇所登録済(滝合、潤徳、あきしま) ・6箇所(府中・潤徳・せたがや・稲城・狛江・福生)プロジェクト登録 ・あきしま・福生水辺の楽校基盤整備	しま) の固別 笠 禰 元 (狛江・かわさき・とうき・滝 合・あきしま・福生) (狛江・かわさき・と、 週待・原治・まげ、 世界の)		
福祉関連対策						
水洗トイレ	64箇所	-	-	-	実施主体及び施行の詳細な場所については、	
緩傾斜坂路(スロープ)	84箇所	-	13箇所(登戸2箇所·南六郷·本羽田·宿河原·鵜の木·田園調布·関戸·大丸2箇所古市場地区·小柳町地区·大丸地区)	-	域住民、関係福祉団体、自治体等と調整を図る	
歴史文化関連対策						
歴史文化関連対策	-	-	·TRMや京浜河川事務所のホームページを通じての支援 ・多摩川シンポジウム「多摩川を歩く」 ・渡しの復活(大田区立矢口小)支援	・TRMや京浜河川事務所のホームページを通じての支援の支援・多摩川シンポジウム「多摩川を歩く」・「丸子の渡し」体験支援		

n3 協働の維持管理 項 目		度の主な実施	· 内容	平成18年度実施		 考
字ある利用形態	ラジコン飛行場1箇所を移動。不法係留対策に関 不法係留船の撤去(簡易代執行) 意向調査及び指示書を送付			不法係留船44隻の撤去(簡易代執行)	119	-
川美化体制	自治体の主催するクリーン作戦を支援。 クリーン作戦は平成13年度約92,000人、平成14年 平成17年度約77,000人の参加	E度約94,000人の参加、平成15 ⁴	年度約96,000人、平成16年度約80,000人、	自治体の主催するクリーン作戦を支援。 平成18年度は84,384人の参加		
上川のふれあい機能		action2	しと川のふれあい関連対策欄の各施設の組	持管理 参照		
业関連施設の機能		acti	ion2 福祉関連対策欄の各施設の維持管理	多 照		
Ⅲ環境モニター機能	水辺の国勢調査の実施 平成13年度には洪水攪乱後のモニター調査を市 水生生物による簡易水質調査 市民と協働で「川の通信簿」を実施	民と合同で実施。		水辺の国勢調査(魚類・植物・利用実態)の実施 市民と協働で水生生物による簡易水質調査を実施 市民と協働で「川の通信簿」を実施		
環境	魚道の維持管理、 空間では、行為の規制に対し	し、協力を求める看板を設置		魚道の維持管理·アユの遡上調査の実施		
川景観		ホームペ	ージを通じて多摩川らい1風景のPRを積極的 「多摩川景観計画検討会」にて検討	的に行う。		
摩川の文化育成機能	新多摩川誌の発行。多摩川週間などのイベントを 平成15年度は、夏休み多摩川教室、多摩川シンス			多摩川週間などのイベントをとおして、啓発活動を推進。 夏休み多摩川教室、多摩川シンボジウム「多摩川を歩く」、多摩川ふれあい教 室		
民等との協働システム	TRMや水辺の楽校など、市民協働の各種施策を推進 平成13年10月から毎月、RCM機関誌 川の市民情報、を発行 平成15年度に、RCMについては、各出張所毎に分科会を開催			TRMや水辺の楽校など、市民協働の各種施策を推進毎月、RCM機関誌「川の市民情報」を発行各出張所毎にRCM分科会を開催		
4 水流実態解明プ	ロジェクト					
項目		度の主な実が	也 内 容	平成18年度実施		
川の適正な利用及び	が流水の正常な機能の確保			1.11 1.01 1.02		
アンケート	多摩川の有すべき水流の目標値の設定に向け、 の意向の把握を行なう。 ・流域内の全市区町村を対象に約2,000件のア 平成15年度には、野川・浅川流域を対象に約1,40	アンケート		-		
水流解明キャラバン	流域住民、河川管理者、流域自治体が一体となっより水流の問題・課題に対する共通認識を形成し等を聴取し、水流の改善に向けた討議を行なう場・平成13年度に1回開催・平成14年度に3回開・平成16年度に3回実施・平成17年度に3回実	たうえで要望・意見 とする。 閉催 ・平成15年度に5回開催		-		
水循環再現モデル	流域の水循環系を再現するモデルを構築し、将来・基礎情報の収集(水文,水質,気象,地形地・物理分布型モデルによる流域再現モデルの材平成15年度に、同時流量観測の実施、水循環再	質,社会条件等) 検討	食討	-		
行動指針·計画		-		「川の流れ、その由来と行方を知るう~多摩川流域水流実態解明プロジェクト行動指針/計画~」のとりまとめを実施。		
5 スーパー堤防の!	整備					
項 目	整備目標	既存整備	平成13~17年度実施	平成18年度実施		考
過洪水対策	- VIV. CT. BB					
高規格堤防整備推	<u> </u>			/此反应之(上在"万层位"—)		
	右 河口~第三京浜	1地区(一部完) (戸手)	2地区完成(中瀬第一·古市場) 3地区施工中(大師河原第二·戸手·小 向仲野)	1地区完了(大師河原第二) 2地区施工中(戸手·小向仲野)		
	左 海老取川~丸子橋 1地区完了 (多摩川二丁目) 1地区完成(下丸子)		-			
高規格堤防整備候	K.相区間	1地区完了	2地区完成(稲城北緑地公園・東町)	11地区完了(矢野口)		
ILI WEITH REPORT IN	右 第三京浜~日野橋	(大丸第一)	1地区 施工中 (矢野口)			

平成 18 年度の実施状況の評価

構成と記述内容について

構成と記述内容について

平成 18 年度の実施状況の評価

このページは、それぞれの action や実施内容ごとに、次の3つの要素から構成されています。

実施

・・・・平成 18 年度に実施した項目の内容を記述しました。

可能な限り、位置図、工事完成後の状況、活動様子の写真などの情報を詳細に示しました。

達成

・・・目標に対する達成度を記述しました。

整備率からの達成度

いわゆる**アウトプット指標**です。整備内容全体に対してどれだけ整備できたかの進捗を示しました。

効果から見た達成度

いわゆる**アウトカム指標**です。何をどれだけ整備したかではなく、整備が進んだことによりどれだけ効果が出たかを指標を用いて示しました。

ただし、維持管理の項目などのように、達成・進捗度を示すことが難しいものもあります。

これから

・・**実施項目に関する今後の事務所の方針**を記述しました。

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(1) 河道断面の確保・堤防の安全性向上

二ヶ領上河原堰の堰対策を行っています。

堰対策

- ・流下能力の向上、および堰上流での土砂堆積防止、および洪水時の安全性確保 のため堰対策を進めています。
- ・平成 17 年度までに河川整備計画策定後の最初の堰対策として四谷本宿堰の対策が終了しており、今後の堰対策として、整備優先度の高い「二ヶ領上河原堰」の対策を進めます。
- 二ヶ領上河原堰については、下記のような治水上の課題を持っており、早急な対策が必要となっています。

堰上流部の流下断面が小さいこと。

・対策 河床掘削を実施し、流下断面を確保します。

堰により流れが固定され、堰上流に土砂が堆積してしまうこと。

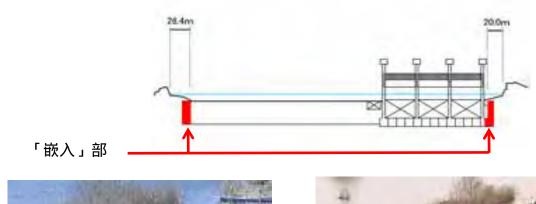
・対策 流れが固定しないよう、堰の構造を改善します。

堰が両側の堤防に「嵌(かん)入」しており、構造上洪水時に危険であること。

小さい箇所

・対策 「嵌入」部の撤去を実施します。

<u>実施</u> 左記の課題対策のうち、今年度は先行して「嵌入」部の撤去を実施 しました。また、他の対策についても、調査・検討を実施しています。



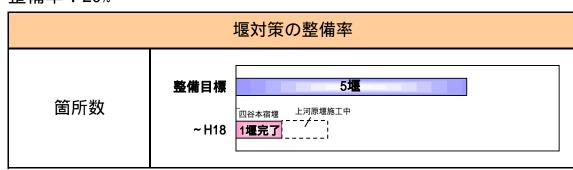


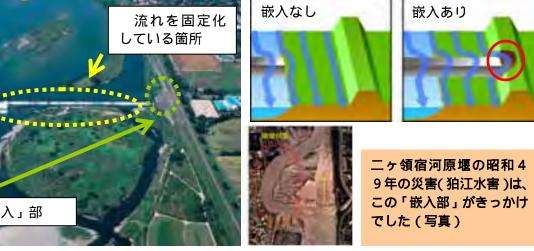


達成

・堰対策の進捗状況は次の通りです。

整備率:20%





堤防に堰が「嵌入」している場合、流れが、 堤防に直接あたることがあるため、堤防の崩

れる危険が高くなる場合があります。

堰対策の進捗状況平成 13~18 年度平成 19 年度以降・四谷本宿堰対策完了(平成 16 年度)・ 二ヶ領上河原堰対策完了後、残る
大丸用水堰・昭和用水堰・羽村取水
堰を、各施設管理者と調整を図りながら適宜対策に着手

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(2) 多摩川堤防侵食集中対策プロジェクト

平成 15 年度から実施していた『多摩川堤防侵食集中対策プロジェクト』が平成 18 年度で完成しました。

多摩川堤防侵食集中対策プロジェクト

・このプロジェクトは、多摩川でも特に被災が集中している中流部における侵食を防ぐために、堤防と河岸の強化を平成 15 年度から全国で期間を定めて集中的に 投資し、投資効果の早期発現を図るものです。

多摩川は関東の中でも比較的急勾配な河川であるため、水の流れも速く、過去 に多くの河岸侵食等の被災を受けています。

平成 13・14 年の出水でも被災を受け、特に水衝部といわれる川の蛇行部分で著しい被災を受けています。これらの水衝部は、河岸前面の局所洗掘が進む一方で、対岸側では砂が貯まり陸域化しており、さらなる河床洗掘を助長していきます。今後の洪水の規模によっては河岸侵食だけではなく、堤防にまで被害が拡大するおそれがあります。

そこで、被害を受けてから対処するのではなく事前に危険な箇所を強化することで、最悪のケースとなる堤防の崩壊を極力防ぐよう緊急的に整備を実施します。 整備にあたっては、河川整備計画(水衝部対策)で「早急に強固な防護が必要」

整備にあたっては、河川整備計画(水衝部対策)で「早急に強固な防護か必要」と定められている河岸維持管理法線"特A"の区間について、総合的な検討を行ったうえで順番を決め整備を行います。

まずは、特に被災が多く発生しており、人口や資産の集中している中流部の10箇所について4年間で完成を目指しました。

具体的な整備方法としては、『堤防を強化するための高水護岸と河川敷の造成』と『河岸を強化するための低水護岸と根固ブロックの設置』を行います。また、みお筋の固定化や砂州の陸域化を解消するため、土砂移動の観点から必要に応じ『対岸側の掘削と河道整正』を実施しました。

このプロジェクトが完成することで、侵食に対する安全性が確保され、一度の 出水で堤防まで被害が及ぶ危険性のある箇所が減少します。

今後台風9号による被害状況を踏まえ、事業の効果を検証していく予定です。

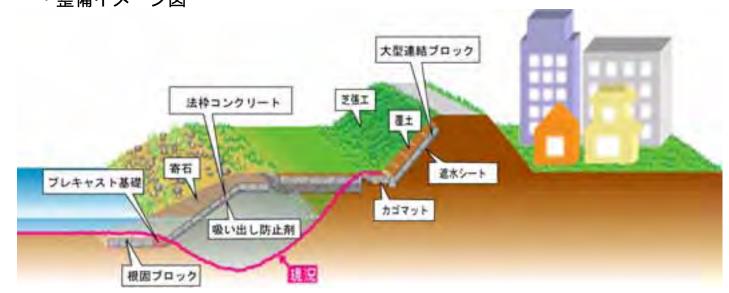


平成 13 年 9 月の出水による被害

平成 14 年 10 月の出水による被害

(日野地区) (下石原地区)

・整備イメージ図





是政地区については、近年の状況から土砂が堆砂傾向であり、モニタリング調査 結果から当面事業を取りやめ。今後も引き続きモニタリング調査を行い、必要な 時期に対策を行う予定です。

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(3) 多摩川堤防侵食集中対策プロジェクト

実施

平成 18 年度には、全 9 箇所の整備区間のうち、

- ・下石原地区の低水護岸
- ・下布田地区の低水護岸

の施工を行いました。

整備に当たっては、安全性を向上させると共に川の自然な流れを尊重し、河川利用や環境に配慮して行っています。

下石原地区(低水護岸)



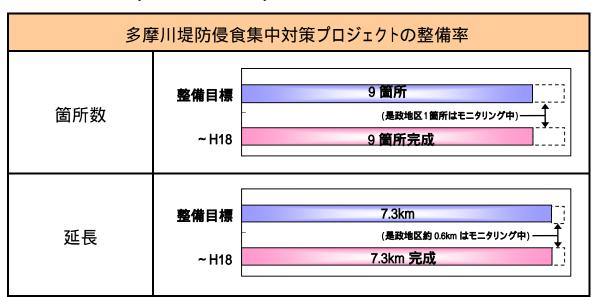
下布田地区(低水護岸)



達成

多摩川堤防侵食集中対策プロジェクトの進捗状況は次の通りです。

整備率:100%(完成しました)



対策スケジュール

	「多	拿川堤防	i侵食集中対	策プロジェクト」	の進捗状況	
地区名	工種	延長(m)	H15	H16	H17	H18
日野	低水護岸 高水護岸	600 500				
下石原	低水護岸 高水護岸	400 800				
元和泉	低水護岸 高水護岸	600 300				
関戸	低水護岸 高水護岸	600 400	洪	洪	洪	洪
押立	低水護岸	400	水		水	水
四谷上流	低水護岸 高水護岸	400 300	期	////頻	期	期
住吉	低水護岸 高水護岸	600 600	間	間	/////	間
錦町	低水護岸	400	- 凡例			
下布田	低水護岸	400	調査・設工事の第			
是政	低水護岸 高水護岸	300 300	工事のま	₹IJE T		
計		7900				
事業費	約70	意円	約28億円	約14億円	約2	8億円

是政地区については、近年土砂が堆砂傾向であり、モニタリング結果から当面事業 を取りやめ。今後も引き続きモニタリング調査を行い、必要な時期に対策を行う予定。

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(4) 河川防災ステーション

洪水等の非常時に広域的な防災活動を行う拠点として、大師河原地区(川崎市川崎区大師河原一丁目地先)において、多摩川で初めての河川防災ステーションを整備中です。

河川防災ステーション

堤防決壊による大規模な氾濫により壊滅的な被害が発生する恐れのある場合において、被害を防止または最小限に抑えるために、水防活動を支援し、災害時の緊急復旧等を迅速に実施するための施設です。

実施

多摩川沿川における「防災に強いまちづくり」の第一歩として、川崎市との共同により大師河原地区において、平成 18 年度までに河川防災ステーションの基盤整備が完了し、平成 19 年 8 月には水防センターの建設が完了しました。

大師河原地区の河川防災ステーションは、基幹的広域防災拠点である「東扇島地区」との連携を図ることで、被災に対し、迅速・的確な 水防活動、復旧活動が可能になります。



災害時イメージ:

堤防の決壊防止のための水防活動、 発災時の迅速な復旧、物資の輸送、 復興の支援などの拠点となります。



通常時イメージ:

通常時は、河川巡視の拠点、または 防災及び環境学習の拠点として地 域のリフレッシュ空間として利用 可能です。

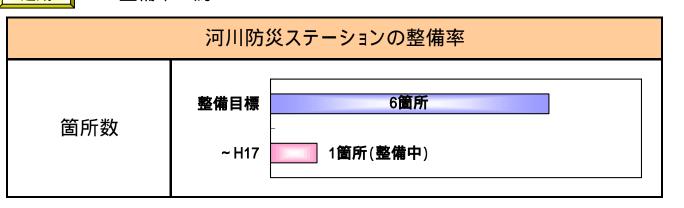


水防センター

大師河原地区河川防災ステーション

達成

整備率:約17%



これから

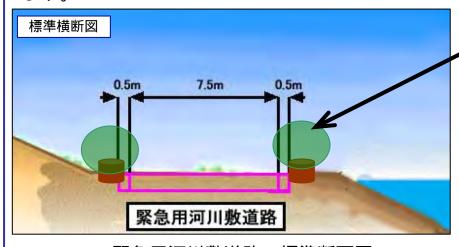
大師河原地区河川防災ステーションは今後、水防活動および復旧活動に用いる 資材の納入を行い、これをもって整備を完了します。

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(5) 緊急用河川敷道路

緊急用河川敷道路の整備を進めています。

緊急用河川敷道路

大規模震災発生時等に、堤防や護岸等の河川管理施設に被害が発生した場合、 復旧活動に必要な資機材を運搬するとともに、緊急用車両の通行及び内陸部の 被災地等に救援物資等を運搬するための緊急的な輸送路として整備を行ってい ます。



樹木帯

緊急用車両や災害復旧時 の大型車両が、相互通行す るのに必要な幅を整備し ています。

緊急用河川敷道路の標準断面図

実施

平成 18 年度には、川崎市大師河原地先約 452m、川崎市鈴木町地先約 170m の区間及び平瀬川渡河橋梁上部工 1 箇所を整備しました。既に整備されたものと合わせると、全体で約 28.4km のネットワークが出来ました。

;幸**代**

・緊急用河川敷道路の進捗状況は次の通りです。

整備率:全体計画区間 92.0km に対して約 31% 緊急計画区間 34.5km に対して約 74%

 多摩川緊急用河川敷道路の整備率

 整備目標
 92.0km(34.5km)

 延長
 28.4km(25.6km)

 ()は緊急計画区間

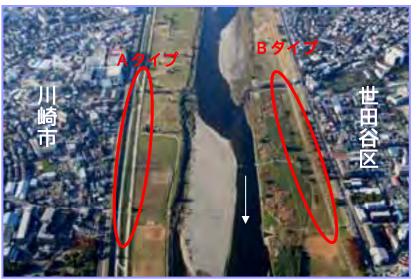
A:クレー舗装タイプ



B:張芝タイプ



既に整備が済んでいる河川敷道路



多摩川 15k 付近

空撮からも、整備されつつある緊急用河川敷 道路の様子が分かります。



多摩川 29k 付近

<u>支川合流部や樋管設置箇所の周辺では、</u> 橋梁を設置し、機能を確保しています。

これから

既存の河川敷利用や河川敷幅が狭い箇所などがあり、積極的な整備が進められない状況にあります。

今後は、堤内地 (宅地のある側)との連携などにより、緊急用河川敷道路の ネットワークをつなげていくことに努めていきます。

平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(6) **CCTV**

CCTVネットワークを多摩川の7箇所において改良しました。

CCTV カメラ

・河川や河川管理施設の状況を 24 時間リアルタイムで把握するため、CCTV カ メラの設置が進められています。

CCTV カメラのとらえた映像は、

一旦京浜河川事務所へ集められ、さら に光ファイバネットワークを通じて、 自治体(神奈川県横浜市、川崎市、平 塚市)とテレビ神奈川、YOU テレビ (CATV)などの報道メディアへと伝送 されています。映像は、インターネッ トでも配信されているため、平常時は もとより、洪水時や災害発生時にも、 一般の人でもリアルタイムで正確な 情報を得ることができます。



実施

多摩川における以下の 7 箇所の CCTV カメラの光ファイバーケーブルネット ワークについて、ケーブルの切断時や大規模停電時に備えてネットワークの強 化を行いました。

- · 平瀬川合流点
- ・宿河原堰
- ・宿河原堰下流
- ・三沢川水門

- ・石原第二観測所・日野橋観測所
- ・秋川合流点

・CCTV カメラにより 2007 年台風 9 号による出水の様子をとらえました。









多摩川原橋下流地点

左:平常時 / 右:出水時(2007年9月7日6:20)

日野橋地点

左:平常時 / 右:出水時(2007年9月7日6:00)

トピックス~各自治体でハザードマップ作成進む

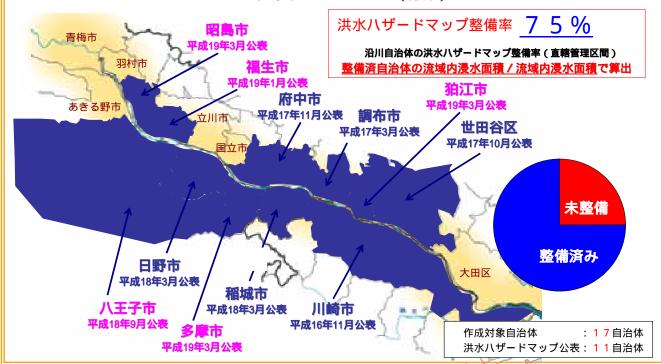
多摩川洪水八ザードマップ(緊急避難地図)が新たに5自治体で公表され ました。

平成18年度公表自治体:

- · 八王子市(平成 18 年 9 月) ・福生市(平成19年1月)
- ・昭島市(平成19年3月) ・狛江市(平成19年3月)
- ・多摩市(平成19年3月)



多摩市ハザードマップ(部分)



平成 18 年度の実施状況の評価~action1 戦後最大規模の洪水を治水の目標にします(7) 治水に関する維持管理

各種維持管理の実施

・洪水、高潮等による災害を防止、または被害を最小限におさえるために、 治水に関する各種維持管理を行っています。

国土保全情報管理の収集・提供

- <u>実施</u> 水位、雨量、流量など水文データを継続して計測しています。また、イ ンターネットなどを通じて計測結果も公表しています。
- <mark>──効果</mark> 市民の洪水等に対する関心に応えることができるようになりました。

河川の形状機能

- □実施 継続して河川巡視を行っています。
- ■■ 日々の巡視で、多摩川の変化に素早く対応しています。

河川管理施設の機能

- | | 実施|| 河川管理施設の操作を行っています。
- | 適切な操作が、河川の安全な維持管理につながっています。

広域防災機能

- | 緊急船着場 2 箇所、緊急用河川敷道路 28.4km の維持管理をしています。
- 「<mark>」</mark> 緊急時への備えを進めています。

洪水・高潮対策の体制

- 実施 平成 18 年度は注意体制 3 回、異常潮位への対応として警戒体制に 1 回入りました。
- □効果 洪水・高潮時でも、関係機関と連携して迅速な体制を確保し、住民の みなさんが安心して過ごせるようにしています。

出水速報

平成 19 年 9 月に多摩川に大出水をもたらした台風 9 号の出水速報についても確認できます。

- ・事務所ホームページトップページアドレスhttp://www.keihin.mlit.go.jp
- ・出水速報ページアドレス

http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/topics/h19/011/index.htm



平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミューシアム」を実現します(1) 魚がのぼりやすい川づくり

魚道の整備を進めています。

を 多摩川では、魚類などの生息環境の連続性を確保するべく、河口から小河内ダム までの区間の魚道を整備する計画を進めていました。

実施

JR 中央線の護床工の魚道が完成しました。

ハーフコーン式魚道であり、魚道内の土砂堆積がしにくく、隔柱 断面が円弧状で角が無いため人が転落した場合の危険性が少ないな どの特徴があります。

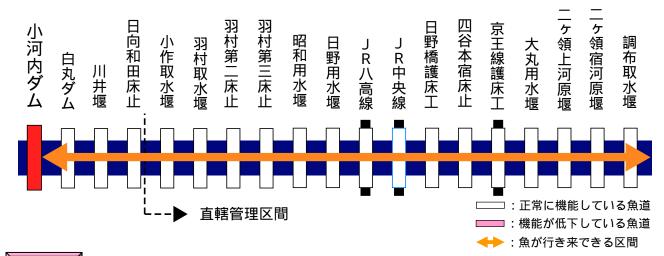




JR 中央線護床工魚道

達成

これまで遡上のネックになっていた JR 中央線の護床工の魚道が完成し、H18 年度末時点で**直轄管理区間(河口から 61.8km まで)より も上流の小河内ダム直下までの横断工作物に魚道が整備されました。**



これから 魚道は、河床低下や土砂の堆積などで、機能維持が困難になる場合があります。モニタリングの実施と共に、維持管理の仕組みを作っていくことが必要です。また、魚道の機能低下が見られる箇所について対応を検討していきます。

アユの魚道遡上調査を行いました。

実施

■ 平成18年度は東京都水道局の協力を得て、4月・5月の時期に、海からのぼってきたアユが最初に出会う河川横断構造物である調布取水堰の水門を開放し、アユの遡上調査を行いました。





達成

遡上調査の結果、平成18年度には89万匹の遡上が確認されました。

<u>これから</u> 来年度も引き続き調布取水堰において、<u>東京都水道局と調整しなが</u> <u>ら</u>アユの遡上数調査を行っていきます。

平成18年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミュージアム」を実現します(2) 水辺の楽校

水辺の楽校づくり、および活動支援を行っています。

水辺の楽校

川を身近な自然教育の場として活用し、川を核にした地域社会の中で心身と もにたくましい子供を育てていこうというプロジェクトです。

地域の住民やボランティア団体が中心となって進める活動を国土交通省が支援します。

多摩川では沿川の各区市に1箇所以上の配置を目指し、計16箇所の整備を 計画しています。

京浜河川事務所は、管内の水辺の楽校に対して、それぞれの特徴や地元市民との連携を重視し、整備や活動支援に取り組んでいます

京浜管内の水辺の楽校の特徴

- ・ 自然環境の重視 (整備は必要最小限)
- ・ 行政の活動支援はハード面よりもソフト面を重視
- ・市民主導による活動
- ・ 活動範囲の広域性 (上下流交流)
- ・ 市民管理によるホ ムページの立ち上げ

実施

多摩川水系では平成 18 年までに、登録校 10 校のうち 6 校の整備が完了しました。また、青梅・八王子・立川・稲城・調布・大師の 6 校が登録、開校に向けて準備を進めています。





とどろき水辺の楽校活動の様子

<u>達成</u> 多摩川管内水辺の楽校における整備・登録・活動実施状況は以下のと おりです(平成 19 年 4 月現在)。



	推進協議会	運営協議会				
<u>楽校名</u>	立上げ日	立上げ日	登録日	開校日	整備内容	活動実績
狛江水辺の楽校	H11.10	H13.4	H13.1.31.	H13.4	池掘削、園路整備等	平成18年度:イベント33回実施
かわさき水辺の楽校	H13.4.25	推進協議会の	H13.1.31.	H13.7.1	池掘削、カゴマット、 スロープ、園路	平成18年度:イベント14回実施
とどろき水辺の楽校	H13.4.25	名称で運営	H13.1.31.	H14.4.20	魚らん池掘削、 散策路、スロープ	平成18年度:イベント15回実施
世田谷水辺の楽校	H17.6.28 準備会立上げ	未定	H19.3.30	H18.4.1	散策路整備、ワンド保 全(予定) 緩傾斜ス ロープ、サイン設置	平成18年度:イベント9回実施
稲城水辺の楽校	H16.2.28	H16.5.23	未定	未定	せせらぎ水路(予定) 自然観察路(予定)	平成18年度:イベント10回実施
府中水辺の楽校	H16.7 (子どもの水辺協 議会として)	H18.4.25	H16.3.30	H18.7.22	スロープ(予定)	平成18年度:イベント6回実施
潤徳水辺の楽校	H16.10.3	未定	H13.1.31.	H18.4.15	未施工	平成18年度:イベント15回実施
滝合水辺の楽校	H14.5	未定	H13.1.31.	H17.3.22	ワンド	平成18年度:イベント1回実施
八王子浅川子供の水辺 協議会	H18.5.23	未定	未定.	未定	未定	平成18年度:イベント1回実施
あきしま水辺の楽校	H14.2(準備会) H14.6(協議会)	H15.4.1	H14.1.31.	H15.5.17	ワンド掘削、木道整備 、園路、柳枝工	平成18年度:イベント12回実施
福生水辺の楽校	H16.1 (運営協議会とし て)	H16.1	H16.3.30	H19.4.8	自然観察路 看板設置	平成18年度:イベント23回実施
立川水辺の楽校	H18.4 準備会立上げ	未定	H21年度予定	未定	未定	平成18年度:イベント17回実施
青梅水辺の楽校	H18.4 準備会立上げ	未定	未定	未定	未定	平成18年度:イベント10回実施
多摩川源流こすげ水辺 の楽校	未定	未定	H18.3.31	未定	未定	平成18年度:イベント2回実施

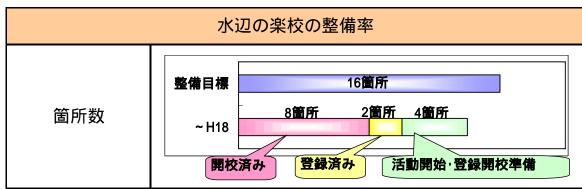
平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミューシアム」を実現します(3)

水辺の楽校・TRMの推進

整備率:約50%(開校済)

約63% (開校済+登録済)

約88%(開校済+登録済+活動開始)



・多摩川における国土交通省 水辺の楽校プロジェクト登録校数は、 10 校で、これは全国の直轄河川水系で 第3位の登録校数です。

	水系名	登録校数
1位	利根川	20校
2位	木曽川	11校
3位	多摩川	10校
4位	十勝川·北上川	9校
5位	石狩川·信濃川	8校

これから 自治体・市民との連携により「推進協議会」、「運営協議会」を立ち上げながら活動していく必要があるため、地元の理解と協力が欠かせない事業です。 未設置の自治体において、いかに地元の気運を盛り上げていくかが課題になります。

トピックス~協働により運営される情報拠点「かわせみ館」

日野市環境情報センターかわせみ館は、行政と市民・ 事業所・学校教育関係者の協働により管理・運営され、 環境に関わる情報集収・発信、教育の指導などを行っ ています。

また、八王子・日野・多摩市周辺地区の多摩川リバーミュージアム情報拠点として活用されています。



多摩川リバーミュージアム (TRM)

TRMの背景と目的

背景:

- ・ 多摩川では河川に対する知識の不足から川の利用者同士のトラブルが発生しており、秩序ある水辺のふれあいの実現が急務
- ・誰もが川と流域の自然や歴史文化などを学習できるシステムが必要
- ・ 河川における市民(団体)等との連携強化のための仕組み作りが必要

目的:

多摩川流域全体をまるごと博物館として、流域で個々に持っている技能や知恵、 情報などを持ち寄り、多摩川の価値と恩恵を多くの人と分かち合う場を提供し、 恒常的な多摩川と人とのパートナーシップの実現を目指します。

実施

<多摩川流域協議会 TRM 部会を開催>

TRM の役割分担の検討や周知のために、多摩川流域の行政で組織する多摩川流域協議会で TRM 部会を開催しました。会議では、TRM の基本的な考え方、TRM の現状と課題について確認し、平成 18 年度アクションプランを提案しました。

平成 18 年度アクションプランの内容

行政担当者間の日常的な情報交流

・メールマガジンを通じた TRM 活動情報の提供

多摩川及び水辺に関連した情報の提供

・福生、昭島、あきる野、羽村市に関連する詳細情報を事務所にて調査し、ホームページで情報提供

自治体の問題解決に向けた連携強化

・部会を通じて自治体が行う水辺に関連した事業を調査

水辺の楽校やTRM現地情報拠点の具体的展開

- ・現地情報拠点は、「川の志民館」や「かわせみ館」での取り組み実施
- ・水辺の楽校は、福生水辺の楽校の散策路整備 ほか

市民活動ネットワーク化プロジェクト

・多摩川流域協議会(多摩川流域リバーミュージアム部会)において、「かわせみ館」における水辺活動団体合同発表会を後援 など

平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミューシアム」を実現します(4)

環境学習支援

環境学習支援

「多摩川流域リバーミュージアム」の実現に向けて、施設の整備だけでなく、 多摩川を利用した環境学習の推進に取り組んでいます。

一般市民や子供達を集めた「ふれあい教室」や「夏休み多摩川教室」等のイベントの開催を始め、市民活動の支援や、先生方への環境学習の普及など、幅広い活動を進めています。

実施

<多摩川ふれあい教室の運営>

多摩川の河川環境に関する啓発を目的に、多摩川に関するいろいろなものの 展示や来館者からの質問の回答などを行い、市民と多摩川を通じたふれあい活動を実施しています。定期的に自然観察会を行い、多摩川の自然を利用した遊 びの体験も行っています。

平成 18 年度には約 9,300 人が多摩川とふれあいました。







多摩川ふれあい教室の様子

<多摩川環境学習懇談会を開催>

平成 18 年度は、環境学習交流会等が 4 回開催されました。

会議・イベント	実施日	参加人数
多摩川環境学習交流会	平成 18年 12月 16日(土)	16 名
多摩川環境学習実技研修会	平成 18年 12月 26日(火)	20 名
プロジェクト WILD エデュケーター講習会	平成 19年2月3日(土)	21 名
多摩川環境学習ミニサロン	平成 19 年 2 月 10 日 (土)	12 名

多摩川環境学習交流会 流域の小中学校への 学習支援として、先生 どうしの情報交換や

こうしの情報交換や コミュニケーションを 図る場として 開催しました。





多摩川環境学習実技研修会

流域の小中学校への 学習支援として、 多摩川の学習資源に ついて幅広く 知っていただくために 開催しました。





プロジェクトWILDエデュケーター講習会

流域の小中学校の先生を対象に、アメリカで開発された環境教育プログラムである「プロジェクトWILD」のエデュケーター講習会を開催しました。





多摩川環境学習ミニサロン

流域の小中学校への 学習支援として、先生を 参加者対象に今回は 石の学習が盛んで特徴の ある活動を展開している 調布市立布田小学校を 訪ねました。





平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミューシアム」を実現します(5)

環境学習支援・岸辺の散策路

<夏休み多摩川教室を開催>

平成 18 年度で第 15 回目を数える「夏休み多摩川教室」が、平成 18 年 7 月 25日(火)26日(水)に、二子地区の河川敷で開催されました。これは、主 に小中学生を対象に、多摩川の環境に興味を持ってもらうことを目的としたイ ベントです。約800人の子どもたちでにぎわいました。

・『夏休み多摩川教室』各コーナーの様子



クイズラリー



川の中の生きものコーナー



降雨体験コーナー



タッチプール 魚と遊ぼう

これから

児童生徒への多摩川環境学習の普及を目指して、教材などのツールを充実させ てきました。しかし、いざ多摩川で学習しようと思っても安全確保の方法が分か らない、魚の採り方などの具体的な方法が分からない、など実施に至るまでの課 題を多数抱えています。

今後は、これらの課題を解決していくと共に、環境学習の授業を実施する際の 人材や道具などの支援を行っていくことが必要です。

人と川とのふれあいを推進する施設の整備を進めています。

岸辺の散策路・緑陰・川の一里塚

「多摩川流域リバーミュージアム」の一環として、「岸辺の散策路」「緑陰」「川 の一里塚」など、人と川のふれあいを推進する施設の整備を計画しています。 「岸辺の散策路」は、流入水路、水衝部、地形などの治水上制約がある区間や、 生態系保持空間以外の全ての場所に配置し、全 46km を整備する計画です。 「緑陰」「川の一里塚」は、2kmに1箇所程度の間隔で整備する計画です。

|福生水辺の楽校において、水辺に近づける ように岸辺の散策路を 225m 設けました。

散策路の表面はクレイ舗装(砂などを固めた舗装) を施してあり、歩きやすくかつ自然にも配慮して います。

維持管理もあわせて行っており、河川巡視などで 補修の必要な箇所を見つけ、修理を行っています。



達成

岸辺の散策路の進捗は次の通りです。

整備率:延長で約11%



これから 「岸辺の散策路」を設置する河川敷は、洪水などによる変化が激しい ことから、維持管理が必要であり、新たな整備が進みにくい状況にあります。ま た、既存の河川敷利用との調整も必要となります。

また「緑陰」・「川の一里塚」は、今現在1箇所整備されていますが、整備の進 まない理由として、堤防上に新たな平場(第二種側帯)の整備と合わせる必要が あり、関係自治体との連携が課題になっていることが挙げられます。

このような課題を解決しながら、整備を進めていきます。

平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミューシアム」を実現します(6) 歴史文化関連対策

文化を育んできた川だから~歴史文化関連対策

歴史文化関連対策

多摩川や流域に関する歴史・文化などに関連する様々な情報の収集・提供を行うとともに、現地において多摩川への来訪者が容易に情報を得ることが 出来るよう歴史や文化を解説した看板などの整備を行います。

あわせて、多摩川誌やその他の流域に係わる様々な文献情報などを集めた 電子図書館の構築を進めるとともに、技術革新が著しい高度情報機器を媒体 として積極的にこれらの情報の提供を行います。

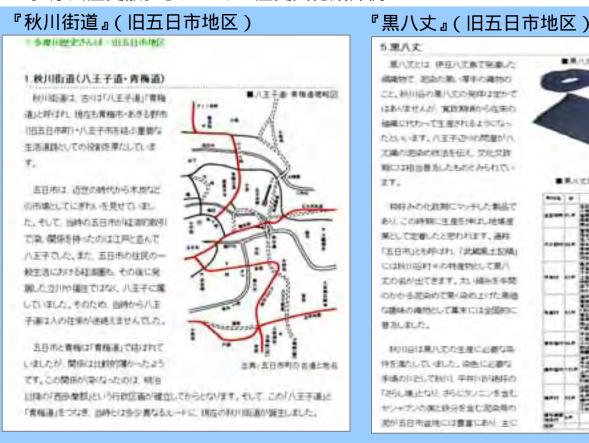
ホームページ上で多摩川の歴史・文化を発信しています。

多摩川や流域に関する歴史・文化について、多摩川流域リバーミュージアムのホームページ上で多岐にわたって紹介しています。

多摩川流域リバーミュージアムホームページアドレス:http://www.tamariver.net ホームページ内『多摩川歴史散歩』のページ



・「多摩川歴史散歩」における歴史文化紹介例



モバイルサイトにおいても歴史・文化や自然など様々な情報の発信を行っています。 トップページアドレス:<u>http://wwws.keihin.ktr.mlit.go.jp/keitai/trm/</u>

■黒八大の中心有(五日市町最上回車)



平成 18 年度の実施状況の評価~action2「多摩川流域リバーミュージアム」を実現します(7)

歴史文化関連対策・景観計画

<多摩川シンポジウム「多摩川を歩く」を開催しました。>

実施

平成 18 年 11 月 25 日 (土) 多摩川下流域を対象に、多摩川の自然環境や流域の歴史文化について認識を高めてもらうため、シンポジウムを開催しました。東急大井町線等々力駅から多摩川沿いの古墳群を見ながら、等々力渓谷、多摩川台公園と歩き、最後に等々力緑地公園を訪ねた後、宮内小学校にて約 1 時間のディスカッションを行いました。



The state of the s

等々力渓谷(谷沢川)

古墳群の見学





多摩川を歩く(等々力編)紹介パンフレット

達成

参加者からは是非継続してほしい、他の地区も歩きたい、スタッフに感謝などの意見がよせられました。

また、今回の「多摩川を歩く」の概要をまとめたパンフレットを 作成しました。

平成 18 年度で第 10 回を数え、今後も引き続きシンポジウムを行い、より多くの人に多摩川の歴史・文化を広めていきます。

河川景観の向上にむけた取り組み

「多摩川の景観形成の考え方」を検討しました。

実施

平成 17 年度にとりまとめられた「多摩川景観形成の考え方(案)」について、平成 18 年度には流域委員会において助言をいただきました。

- 1) 「多摩川の景観形成の考え方」の構成 「基本方針」・「ゾーニング」・「ゾーンにおける景観保全・形成の方針、景観保全・形成の 施策」からなります。
- 2) 景観形成の方針・施策

多摩川の景観形成の考え方(案)

基本方針

(関連計画の基本方針が前提に)

ゾーニング

(各地域・地点の特徴を踏まえたもの)

ゾーンにおける

景観保全·形成の方針·施策 (有効かつ現実的な景観保全・形成施策) ・多摩川全体に共通する景観形成の基本的な考え方を定めることにより、都市を貫く大きな軸線として、筋の通った景観形成を図ります。

・多摩川の全区間を景観特性に応じた8つの区間(ゾーン)に分類し、各区間の景観特性に応じた景観形成の方向性を見定めます。

・ 景観特性に応じた各区間 (ゾーン) において、景観形成のための幾つかのテーマと具体的な取り組みの方向をまとめます。

これから 今後は、沿川自治体、地域住民等の意見を聞きながら 「多摩川の景観形成の考え方(案)」をとりまとめる予定です。

トピックス~第25回多摩川流域セミナーにおいて多摩川八景を取り上げました

第 25 回多摩川流域セミナーでは多摩川の景観をテーマに取り上げ、多摩川八景の今昔について紹介しました。







二子玉川兵庫島(左:昭和59年/右:平成15年)

多摩大橋付近の河原(左:昭和57年/右:平成19年)

平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(1) 「ふれあい点検」を実施しました(概要)

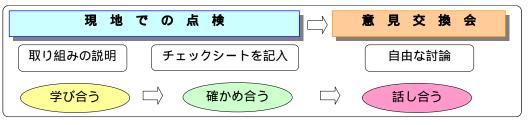
治水を目的とした整備箇所で、「ふれあい点検」を行いました。

ふれあい点検

平成17年度より始めた新たなフォローアップの取り組みです。

河川整備等の現状を、周辺に住む住民の方々、河川管理者及び当該市区町村 が一緒に見て歩き、お互いの意見を交換するものです。

現地でしか見ることのできないような、環境面・利用面での施工上の配慮等に 関して、情報をご提供することができ、意見交換をすることで、河川整備等の目 的、内容について、行政側と住民・市民側とで、共通認識を得ることを目的とし ています。



	実施日など	点検箇所	参加者数
第3回 永田地区·羽村編	H18.10.14(日) 13 時 ~ 17 時 (晴、最高 18.9)	永田地区 羽村第3床止め~羽村取水堰	計 22 名
第4回 侵食集中対策箇所編	H18.11.12(日) 13 時~17 時 (晴、最高 15.2)	四谷上流地区 是政地区 下石原地区	計 9 名

< 現 地 >

点検箇所毎に時間を取って「ふれあい点検チェックシート」に次の3点を記入し ていただきました。

整備内容・整備状況への評価 その他気づいたこと 総合評価



< 意 見 交 換 > 参加者の皆様から、感想や気になったことなど、 意見を頂きながら、地図上に落とし込みました。

<見学のポイント>

第3回 永田地区・羽村編

多摩川の自然再生の取り組みを紹介。



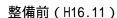
がよみがえりました。



第4回 侵食集中対策箇所編

侵食集中対策(河岸の護岸整備)の紹介。







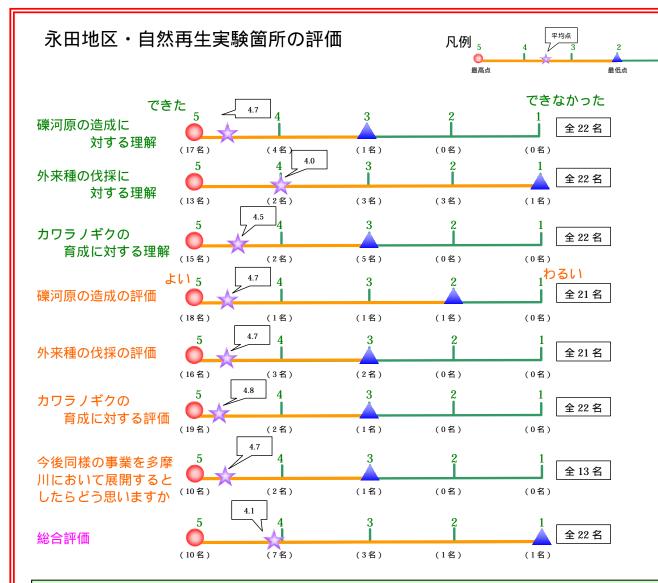
整備中(H17.3)



整備後(H17.6)

「ふれあい点検」は、平成18年度より多摩川流域協議会主催行事となりました。

平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(2)「ふれあい点検」を実施しました(第3回参加者からの評価)

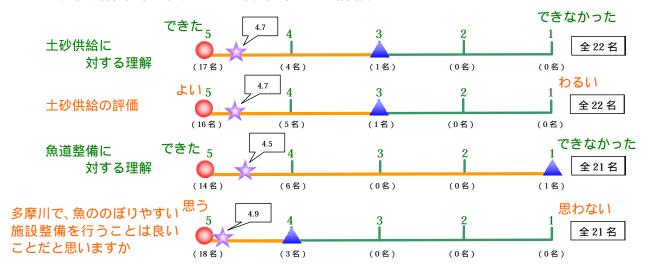


自然再生事業については概ね理解・評価されています。





土砂供給箇所・魚道・羽村取水堰の評価



土砂供給、魚道とも、概ね理解・評価されています。

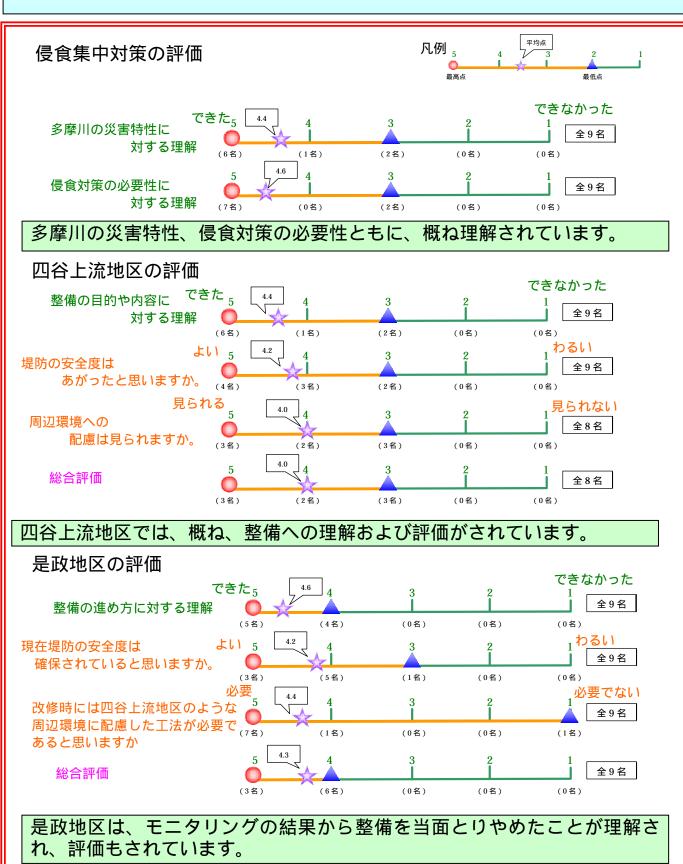
「ふれあい点検」の結果(意見のまとめ)

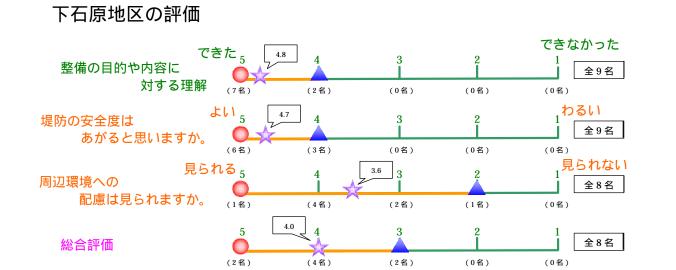
- < 永田地区・自然再生実験箇所 >
- ・自然再生事業は、他の箇所でも取り組んでほしいです。
- ・カワラノギク復元のために、人間の手間をかけすぎています。
- ・外来種の駆除は、ボランティアを募ってはどうでしょうか。
- ・林を、カワラノギクの再生場所のように、全域を刈り取ってほしいです。
- ・遊歩道等を整備し、多摩川の自然が楽しめるようにしてほしいです。
- < 土砂供給箇所・魚道羽村取水堰 >
- ・土砂供給の目的は理解できましたが、効果がよくわからなかったです。
- ・土砂供給を人工的に行わずに自然に供給できる方法はないでしょうか。
- ・魚道がこんなに整備されているとは知りませんでした。
- ・魚道は人工的なので、自然に魚がのぼれる工夫がほしいです。





平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(3)「ふれあい点検」を実施しました(第4回~参加者からの評価)





工事への理解、安全度への評価は、概ね理解・評価されていますが、環境への配慮については、いっそうの配慮が必要です。

「ふれあい点検」の結果(意見のまとめ)

- ・多摩川は整備も進み安全な川だと思っていたが、 水衝部など危険がいっぱいあることにおどろきました。
- ・水衝部は自然環境がよいところなので、画一的な護岸工事は残念です。
- ・法枠内の洗掘部を放置したままにしておかない様にお願いします。 (四谷上流)
- ・モニタリングで当面事業を中止しているのはよいと思います。(是政)
- ・かつてから高水敷幅が狭く危険だと思っていました。 工事が始まったのは住民の安全のためにはよいことです。(下石原)





平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(4)

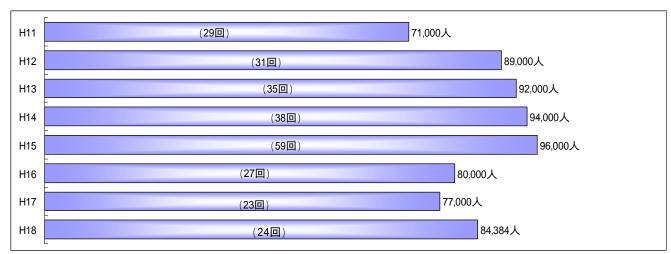
河川美化・水面利用の適正化

協働の取り組み

不法占用や不法行為などに対しては、市民や地元自治体、関係機関と連携し、協議会などの話し合いの場を持ちながら取り組んでいます。

実施 < 河川美化体制 >

自治体等が主催し、市民が参加する「多摩川クリーン作戦」を支援しています。 平成 18 年度は、各自治体で合計 24 回実施され、のべ 84,384 人の参加がありま した。



多摩川クリーン作戦参加者の推移



川崎市での活動状況



調布市での活動状況

成 この運動により、130 トン以上のゴミが回収されました。 市民や自治体と連携する体制が整いつつあります。

実施

<多摩川下流部水面等利用者協議会>

多摩川では「河川の利用と流水の機能維持に関する具体的な対策」として、不法 係留船に対し係留環境の是正を行っています。

平成18年7月に開催された第5回協議会において、簡易代執行の実施を含む今後の対応方針に関して、協議会の了承を受け、平成18年9月下旬から10月中旬にかけて、羽田地区における2回目の簡易代執行を実施しました(1回目は平成16年6月に実施済)。

今回対象となった船舶は78隻にのぼり、うち44隻を撤去、6ヶ月間の保管期間内に全ての船舶が引き取りが無かったため、廃棄処分しました。

平成19年度は、引き続き不法係留船対策として、行政代執行を実施していく予 定です。



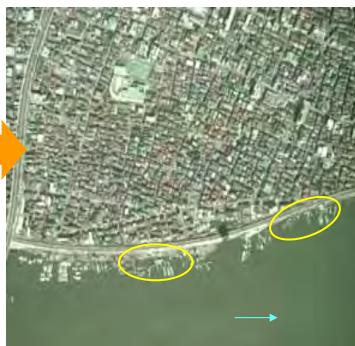




船舶撤去の様子







簡易代執行後(2007年1月16日)

平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(5)

リバーシビックマネージャー制度

市民との協働で多摩川を見守っています(住民等との協働システム)

リバーシビックマネージャー制度(RCM)

RCMは、多摩川・鶴見川・相模川について様々な分野の専門知識を有する住

民の方、及び河川に深く 関心を持つ住民の方のボランティア活動の支援を通じて、河川管理者と住民の協働による河川の適正な維持管理の実施を目的とする日本で初めてのシステムです。

その活動内容はRCMの機関紙「川の市民情報」を通じて公開されています。





『川の市民情報』

実施 平成 18 年度は、京浜管内で 98 名の方がリバーシビックマネージャーとして登録しており、うち 73 名が多摩川・浅川で活動し、多摩川管内で全 173 件の報告をいただきました。

また、平成18年度にも、引きつづき各出張所ごとに分科会を開催し、意見交換を行いました。

リバーシビックマネージャー分科会や合同巡視の実施

リバーシビックマネージャーには、多摩川の河川管理に関する気づいた点を日々FAXやメール等で報告していただいていますが、直接顔を合わせての会合も年に一度行っています。

事務所職員とリバーシビックマネージャー が意見交換することで、様々な話題が活発 に話し合われています。

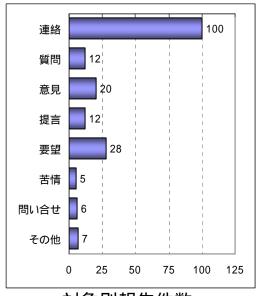
分科会	開催日
多摩川上流	H18.7.31
多摩川中流	H18.7.19
夕手川中川	H19.3.1
多摩川下流	H18.8.3
夕手川下加	H19.3.14
浅川	H18.7.20
バスハ	H19.3.6

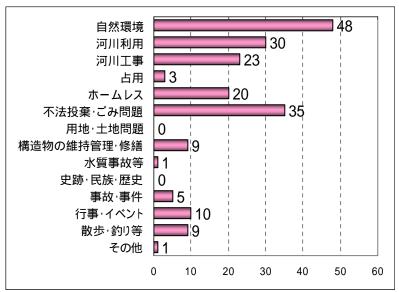
<u>達成</u> 平成 12 年にリバーシビックマネージャー制度が発足して 6 年、その発案 が具体化され効果を発するなど、活動の幅も広まってきました。

リバーシビックマネージャーの成果

平成 18 年度も、リバーシビックマネージャーの方々から数多くのご報告を頂きました。

・H18年度における京浜河川事務所管内におけるRCM報告件数





対象別報告件数

項目別報告件数

報告内容例:

- ・「水辺の楽校で、今回は のような活動を行いました。」
- ・「××において不法投棄が見受けられたので、報告します。」
- ・「出水の後で川の巡視をしてきましたので、報告します。」
- ・「希少植物の保護に関してどのように対応すればいいのか教えて下さい。」
- ・「河原のゴミ掃除のため、ゴミ袋の支給を願います。」
- ・「マナー向上を促すために看板の設置を検討しては?」

平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(6)

多摩川河川相談室

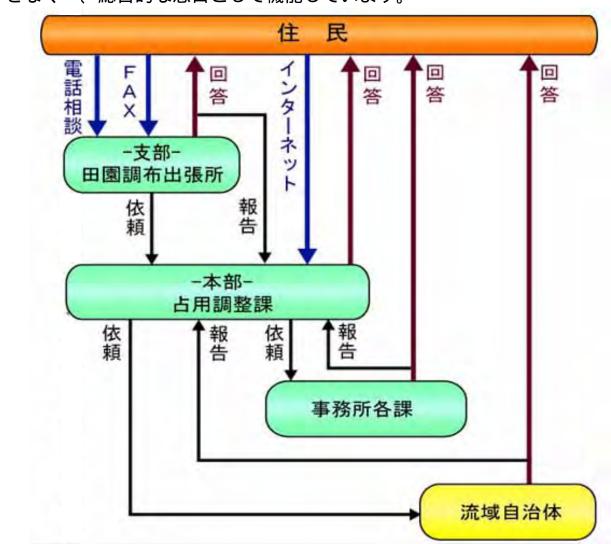
引き続き多摩川河川相談室を設置しています。

多摩川河川相談室

広報公聴事業の一環として、多摩川の河川事業に対する沿川住民のニーズを直接把握し河川行政に反映させる仕組みとして平成11年8月2日に開設されました。日常的に市民と共同して河川管理を行う仕組みを作ることを目的としています。

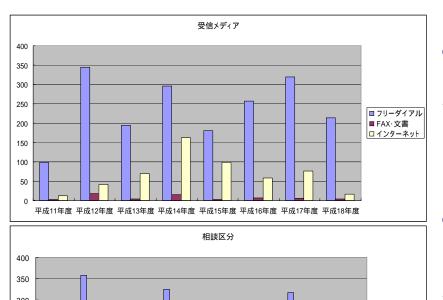
住民から寄せられた相談(問い合わせ、意見、要望、苦情、通報、提言など)を電話(フリーダイヤル)、FAX、インターネットで受付け、流域自治体とも連携しながら迅速な対応を図ることとしています。

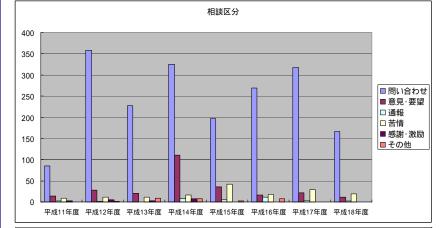
住民が一つの窓口に一度だけ相談することにより、いわゆる「たらい回し」 をなくし、総合的な窓口として機能しています。

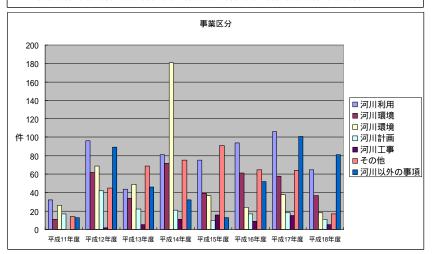


実施

平成 18 年度には、234 件の様々なご意見、ご要望、ご質問等がありました。







- ・相談室に寄せられた質問と回答の例
- Q. 水源から海までの長さは、どれくらいあり ますか?
- A. 源流の山梨県笠取山から河口の羽田沖の 東京湾まで、全長 138kmあります。流 域面積は1,240km²で、山梨、東京、神 奈川県を流れる一級河川です。
- Q. 魚が食べる食べ物はどういう物があるのですか。また、魚のエサはどの辺りに沢山あるのですか?
- A. ミミズ・水生昆虫、エビ・カニ・コケ等があります。それらは、川岸・浅瀬・ワンド・川底などにいます。
- Q. 多摩川という名前は、誰がつけたかわかりますか?
- A. いろいろな説があります。例えば平安時代に出された「倭名類聚抄」には武蔵国府多麿郡という表記があり「多磨」を「タマ」ではなく「タバ」と読ませています。多麿郡に大丹波、小丹波という村があったという説、水源が甲州都留郡丹波山村にあったため「丹波川」と呼んだという説などがあります。いずれにしても誰がつけたかはわかりません。

等々

これから

今後も引き続き多摩川相談室を通じて河川行政に対する沿川住民の方々のニーズを把握し、いい川づくりに反映させるよう努めてまいります。

平成 18 年度の実施状況の評価~action3 協働の維持管理をめざします(7)

日々の維持管理

洪水・高潮等による災害に備え、各種維持管理を行っています。

<河川巡回パトロール>

いつでも安全で快適な河川空間を保つには、きめ細かなメンテナン スが必要です。そのため、河川パトロールカーや河川監視用バイク等 で流れている水、土地の占用、工作物の設置状況等を見回りしていま す。

巡視のポイント

- 1)流水の占用状況
- 許可を取らないで川の水を取水したり、散水 するための施設を無許可で改造していないか?
- 川の中で許可なく採剤して土など持ち出
- 川の中の土地を許可なく握ったり、騒土したりしていないか?
- 川の水質に質常はないか?川の種生や鳥類等の生態状況に しい変化はないか?ゴミの投棄や放置準両はないか?

- 工作物の周辺に不審物はないか? 挙動不審者はいないか?

- 土地の占用状況
- 川の中を許可なく耕作したり、工作物を作るなどのことが行われていないか? また、許可の目的以外の使用や許可範囲以外の使用が行われていないか?
- - 川の中で許可のない工作物が作られていないか? 許可どおりに工事が行われているか?
 - 6 船舶緊留等の状況
 - 許可なく船が整督されていないか?
 - (3) 河川管理施設および許可工作物の維持管理状況 理筋や護率、河川構造物に異常はないか?標識、野難
 - 標、増発抗などに開業はないか?
- 親水施設が壊れていないか?施設にゴミや砂などが蓄まっていたり、危険な所はないか?標道、転等筋止機、植動等の状況に異常はないか?
- 作可のない工作物が作られていないか?許可なく土地を握ったり、雌土したりしていないか?
- 図 その他(自由使用の状況)
 - 自由使用としての利用が適切に行われているか?



河川巡視の様子

<河川管理施設の維持・点検>

川の状況を常に把握し、洪水等の緊急時に河川管理施設が正常に機 能するよう、維持・点検を行っています。

帰防の維持



除草や、穴があいたり崩れ たりした所を元の状態に 修繕します。

水門等の点検



地震があったときには・・・

地震が発生した場合、堤筋をパト ロールして現地の被災状況、河川 管理施設の被害状況等を点検して 味わります。

観測機器の点検

・京浜河川事務所では、川の水位を計ったり、流域の雨量を計っています。これは、 台風が近づいて来た時、どこまで水がくるのかなどを予測したり、河川の流 量が減ってしまった時も、水量を把握したりするのに特に用いています。 また、水質自動監視装置は、異常水質がおこった場合に、より早く知るために 設置され、毎正時のデータを事務所へ送信しています。

その他には、地震計、地下水位計なども設置され、観測が行われています。

水位·流量観測施設

川の水位を計測し、データ を事務所に自動送信するの が「水位観測施設」です。 流量は水位のデータから換 算して求めます。



雨量觀測所 河川の流域で降る南の 量を計測します。



川の水を自動的に採水し、 水質測定を行い、デー 夕を事務所に送る施設 です。



これから

平成18年7月に、「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について(提 言)」がとりまとめられました。この提言を受け、多摩川でも河川維持管理計 画の作成に取り組んでいます。

平成 18 年度の実施状況の評価~action5 スーパー堤防の整備を進めます(1)

スーパー堤防

スーパー堤防(高規格堤防)の整備を進めています。

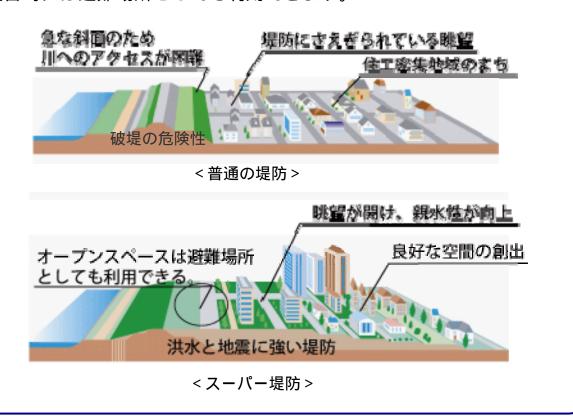
スーパー堤防

都市河川の中でも比較的勾配が急な多摩川は、洪水が一気に流下する特 性があり、計画を上まわるような洪水が起きれば堤防が壊れる恐れがある ため、さらなる堤防の強化が望まれています。

そこで堤防の幅が非常に広いスーパー堤防を整備することにより、万が 一計画を超えるような大洪水が起きた場合でも、水が溢れることはあって も堤防の決壊を防いで壊滅的な被害を避けることができます。

また、以下の効果も期待できます。

- ・ 必要に応じて地盤改良を施すため、地震に強い堤防になります。
- ・堤防の傾斜が緩やかになり、川へのアクセスが向上します。
- ・ 堤防の川側でない斜面を公園や緑地、道路など公共のオープンスペース として土地の有効活用ができます。
- ・災害時には避難場所としても利用できます。



平成 18 年度は、これまでに引き続き、下記の地区でスーパー堤防の整備を 実施しました。

施工中:戸手地区・小向仲野地区 完成:大師河原第二地区・矢野口地区

<候補区間>

矢野口地区







着工前

施工中

完成

<推奨区間>

大師河原地区







完成

戸手地区







着工前

施工中

完成予想図

小向仲野地区







着工前

施工中

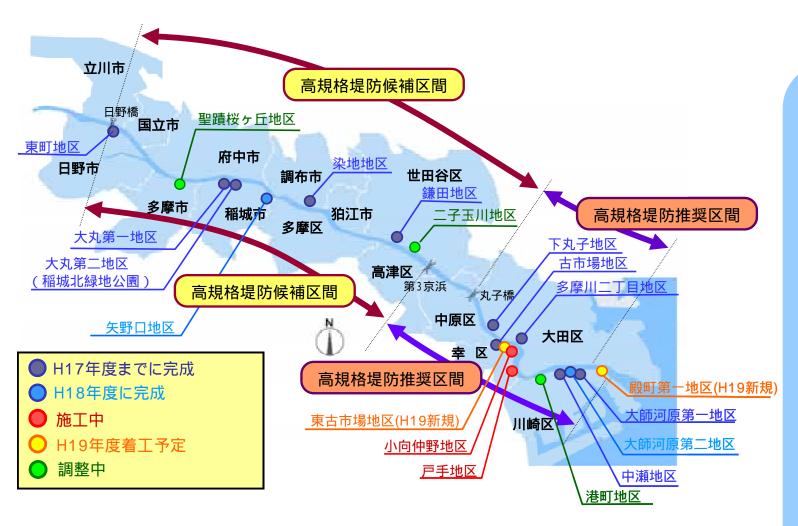
完成予想図

平成 18 年度の実施状況の評価~action5 スーパー堤防の整備を進めます(2)

スーパー堤防

達成

- ・平成 18 年度までに、両岸 80km のうち 7.3km の区間でスーパー堤防事業を進めています。
- ・スーパー堤防事業の平成19年3月現在の進捗状況を以下に示します。



・スーパー堤防の整備率は以下の通りです。

スーパー堤防整備率

(事業実施中・事業調整中を含む)

推奨区間				候補区間	
対象延長	整備延長	整備率	対象延長	整備延長	整備率
28.1	4.10	14.6%	51.9	3.24	5.9%
				計	8.9%

これから

スーパー堤防事業は、世代を超えてねばり強く取り組むべき、息の長い 事業です。よりよい街づくりと安全な川づくりを目指して、地域との合意 が得られた地区から進めていきます。

パンフレットの作成・配布を行っています。

・スーパー堤防事業に関する理解を広めるため、スーパー堤防について のパンフレットを制作し、配布しています。







市民の活動

「TB・NETセミナー」が開催されました。

多摩川流域ネットワーク(通称: TB-NET)

多摩川全流域において多摩川に感心のある市民団体・個人を結ぶ組織として設立され、多摩川の良好な将来に資するための意見提案や活動や、多摩川流域懇談会に参加して市民(団体)の意見や提案を行っています。

・平成 18 年度には全 3 回のセミナーが行われました。うち第 5 回、6 回においては京浜河川事務所より講師を派遣しました。

	日付	テーマ	内容		
第5回	6月6日	多摩川の治水 1	多摩川における治水対策についての勉強会の後、問題点の指摘およびそれらを受けての討論が行われました。(京浜河川事務所より講師を派遣)		
第6回	7月5日	多摩川の治水 2	多摩川における治水対策の主にソフト面に ついての勉強会の後、問題点の指摘および それらを受けての討論が行われました。(京 浜河川事務所より講師を派遣)		
第7回	10月1日	多摩川クリーン & ウォッチング	多摩川をきれいにして玉川浄水場の上水浄水場としての再開実現を目指した活動の一つとして行われている、毎年恒例の行事です。 河川敷のゴミ集めと調布堰の取水所の見学、玉川浄水場の見学、多摩川の水質の現状と玉川浄水場再開の見通しについて学習会の後、意見交換が行われました。		

多摩川流域市民学会が発足しました。

多摩川流域市民学会

源流から河口までの広い流域を視野に入れ、各流域で活動される人々の多様な活動を知り、情報・経験・英知を集め、互いを高めあうことで、多摩川水系における「いい川づくり」を目指します。

・平成19年1月28日、多摩川で初めての市民の手による「川の学会」が開催されました。

NPO法人多摩川エコミュージアムが「平成 18 年度手づくり郷土賞」を受賞しました。

NPO法人多摩川エコミュージアム

市民と行政のパートナーシップで進めている「多摩川エコミュージアムプラン」を達成するために、せせらぎ館の管理・運営、自主事業の実施、情報発信などを市民と行政との協働で行っています。

・活動内容







水辺の楽校の開校

みんなで歩こうイベント

せせらぎ館内部

・NPO法人多摩川エコミュージアムの多岐にわたるエネルギッシュな活動が評価され、国土交通省大臣表彰「平成18年度手づくり郷土賞」を地域活動部門で受賞しました。

「第1回多摩源流の森 黎明祭」が開催されました。

多摩川源流研究所

多摩川源流研究所は、多摩川源流部に位置する山梨県小菅村が、平成 13 年 4 月 8 日に設立した機関で、源流を活かし源流にこだわったまちづくりを進める多摩川源流域の拠点です。会報「源流の四季」や源流体験イベントなどを通して、源流からの情報発信を続けています。

・「黎明祭」は、「多摩川源流・百年の森づくり」が小菅村で開催されたことを記念して平成 18 年 10 月 15 日に開催された行事で、記念の歌碑の除幕式や、神楽の奉納などが行われ、約 170 名の参加者で賑わいました。



歌碑の除幕式

多摩川水系河川整備計画に関係する流域での活動

「第7回全国源流シンポジウム」が、山梨県小菅村にて開催されました。

平成 18 年 10 月 28 日・29 日に、山梨県小菅村において「第7回全国源流シンポジウム」が開催されました。

「全国源流シンポジウム」は、第1回が平成13年に、多摩川源流研究所設立と同時に多摩川源流で開催されました。その後、源流を巡る全国での動きが盛んになり、各地で開催された後、第7回シンポジウムが、再び多摩川源流で開催されました。





当日は、北海道帯広市から宮崎県五ヶ瀬村までの全国各地から 280 名が参加しました。

シンポジウムでは、多摩川源流域の小菅村と東京農業大学が共同で計画している源流域の自然体験や文化学習などを通し、森林再生や地域活性化を図る「多摩川源流大学」の構想発表等が行われました。翌日には、多摩川源流を訪ねるエクスカーションや、食文化の体験イベントなどが開催されました。

このような源流を巡る取り組みを通して、流域全体へと目を向けることにつながっています。

「川崎市多摩川プラン」が策定されました。

平成 18 年度末、川崎市が、2007 年度~2015 年度を目標年次とする「川崎市多摩川プラン」を市民・企業・行政の協働により取りまとめました。

基本理念として「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を掲げ、7つの基本目標と30の施策の方向性をまとめたものです。

「多摩川流域セミナー」が3回開催されました。

平成18年度には、3回の多摩川流域セミナーを開催しました。

話題提供として、治水、河川敷利用、水質、環境学習、源流からの発信、水辺の楽校、野川の水路づくり、渡し、大学生の活動、市民学会など、幅広いテーマがあげられ、各回とも、活発な議論が行われました。

回数	テーマ	開催年月日
第 22 回	「生まれ変わる多摩川を歩く~西六郷・土手の昔と今~」	H18.6.26
	(大田区にて開催)	
第 23 回	「五感で調べる多摩川の水~子どもと一緒に楽しもう	H18.9.18
	~」(とどろき水辺の楽校付近にて開催)	
第 24 回	「多摩川に虹を架けよう~私達の夢~」	H18.12.2
	(ニヶ領せせらぎ館にて開催)	

第 24 回セミナーでは、二ヶ領せせらぎ館 2 階会議室に源流の檜の腰板を使う 改修のお披露目もおこなわれ、檜の香りに包まれたセミナーになりました。







東京都、神奈川県管理区間での河川整備計画が策定されています

東京都や神奈川県が管理する多摩川支川の河川整備計画が、多摩川水系河川整備基本方針に沿って、また多摩川水系河川整備計画とも調整を図りながら進められています。

平成 18 年度には、東京都が管理する浅川流域の 13 河川および多摩川に合流している谷地川、程久保川を加えた計 15 河川(これを浅川圏域と呼ぶ)において、浅川圏域河川整備計画が策定されました。

現在は東京都が策定作業中の野川・残堀川について調整が図られているほか、この他の各支川でも策定作業が進められており、今後も連携を図っていきます。

多摩川水系河川整備計画の今後の方向性(1)

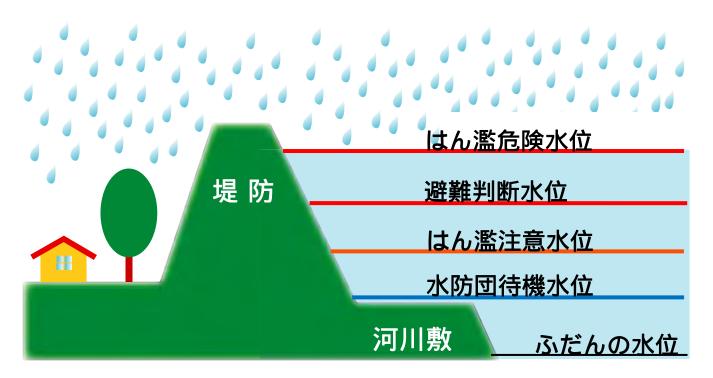
平成 18 年度における国土交通省の取り組み

平成 18 年度に、国土交通省で出された今後の方向性に関するトピックスを紹介します。

洪水等に関する防災用語改善検討会最終提言(平成18年6月)

これまでの防災用語は、住民が理解しにくい用語が用いられていたり、災害の危険度のレベルがわかりにくいなど、受け手側の的確な判断や行動に繋がるものになっていない等の問題がありました。

そのため、以上のような認識のもとに、これまでの防災情報の用語・表現を総点検し、これまでのともすれば発信者側の用語・表現であったものを抜本的に見直し、受け手側にたったものに改善する検討を行いました。



・ 多摩川では、これまでにもホームページなどを通じて、わかりやすい防 災情報の提供を行ってきましたが、さらに、的確かつわかりやすい情報発 信を実施していきます。

平成19年の台風9号で明らかになった課題は、避難時における自治体への指示の出し方などがありますが、これらは水位・降雨等の詳細なデータを情報提供するなど、改善の検討を行います。

安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について (平成18年7月)

平成 16 年の新潟、福井等における破堤等の災害や平成 17 年の台風 14 号における浸水被害の発生等、近年の豪雨災害を踏まえ、国民生活の「安全・安心」を実現・維持するための今後の河川管理のあり方について、「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討委員会」を設置し、平成 17 年 12 月 22 日より 5 回にわたって審議を行い、同検討会の提言をとりまとめました。

提言を受け、本格的な維持・更新の時代に対応した、効率的で確実な河川 管理を行います。

【提言のポイント】

- 「川の安全・安心カレンダー」を作成します。
- 河川管理の実施状況を公表し、地域からの評価を受け、地域に見える河川管理を目指します。
- → 多摩川では、日々の河川管理についても取り組んでいますが、現在、「河川維持管理計画」を関係各課で鋭意作成中です。

「河川維持管理計画」の作成にあたっては、それぞれの地域の河川特性に応じた計画とすること、適正な河道管理も含めた維持管理計画にすること、治水面の維持管理と環境面の維持管理が相反するものでなく両面からのトータルな維持管理となるようにすること、などを目指しています。

また、環境面の維持管理計画である「河川環境管理計画」についても、 占用区域および、生態系保持空間の維持管理のあり方など、新たなニーズ に対応するための検討をしています。

多摩川水系河川整備計画の今後の方向性(2)

「多自然川づくり基本指針」の策定(平成18年10月)

平成2年に多自然型川づくりが始まって以来、多自然型川づくりが定着しつつある一方で、依然として画一的な標準横断形で計画したり、河床や水際を単調にするなど、課題の残る川づくりもまだ多く見られます。

このため、これまでの多自然型川づくりの現状を検証し、新たな知見を踏まえた今後の多自然型川づくりの方向性について検討を行うため、「「多自然型川づくり」レビュー委員会」を設立し、委員会から提言をいただきました。

国土交通省は、この提言を踏まえ、平成2年に定めた「多自然型川づくり 実施要領」を廃止し、多自然川づくりの新たな展開を図るべく「多自然川づくり基本指針」を定め、河川局長より関係機関に周知しました。

【基本指針のポイント】

- モデル事業であるかのような「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」へ
- ●「多自然川づくり」をすべての川づくりの基本とする
- 川づくりのあらゆるプロセスを通じて「多自然川づくり」を実現
- 多摩川では、自然な川の流れを最大限尊重することを前提として川づく りを実施しています。魚ののぼりやすい川づくりや、自然になじむ護岸の 整備などを行っています。



宿河原堰魚道



上河原のワンド

美しい河川景観を形成・保全するための総合的なガイドラインを 公表(平成18年10月)

国土交通省河川局では、「河川景観ガイドライン検討委員会」を開催し、美しい河川景観の形成と保全をはかるために必要とされる考え方につき検討、整理し、「河川景観の形成と保全の考え方」としてとりまとめました。

美しい河川景観を形成し保全するためには、これまでの個別の河川施設整備の中での取り組みだけでは不十分であるため、今回の「河川景観の形成と保全の考え方」では、河川に関する調査、計画、設計、整備、維持管理、まちづくりとの連携等のあらゆる段階における総合的な取り組みがはかれるように、河川景観の形成と保全に関する視点、考える手順、整理すべき情報、活用すべき手法等につき、総合的にとりまとめています。

今後、この考え方を参考に、全国の河川で、それぞれの河川や地域に固有の自然・歴史・文化・生活と調和し、上流から下流まで連続した美しい河川 景観の形成と保全の推進を行っていきます。

【ガイドラインのポイント】

- あらゆる段階において、景観に配慮した取り組みが必要
- 河川景観を理解し、目標を定めるための調査・検討の手順等を整理
- 地域と共に河川景観を作り上げていく仕組みづくりにあたっての手法等を整理
- 場のデザインだけでなく、河川景観の大きな骨組となる要素のデザインに ついても言及

多摩川では、平成16年度に「多摩川景観計画検討会」を立ち上げ、現在、「多摩川景観形成の考え方(案)」をまとめているところです。

また、平成 19 年 7 月に行われた第 25 回多摩川流域セミナーでは、多摩川の景観をテーマにとりあげ、市民と一緒に景観について議論を行いました。

平成 18 年度の環境データ(概要版)(1)

平成 18 年度の水質調査

水質の調査項目について

京浜河川事務所では、多摩川水系の水質調査を毎年継続して行っています。平成 18 年度の主な調査項目は、定期水質調査(BOD などの生活環境項目等) 浄化施設水質調査、底質調査、農薬調査、地下水調査でした。

定期水質調査の結果概要について

【BODについて】

表 - 主要地点の水質 (BOD) (平成 18 年度)

地点(河口からの	大師橋	調布取水堰	多摩川原橋	拝島橋	兵庫橋	報恩橋	高幡橋
BOD (mg/I) 距離)	(2.6km)	(13.4km)	(28.1km)	(47.5km)	(野川)	(大栗川)	(浅川)
75%値	1.8	2.2	4.0	0.9	7.1	1.8	1.8
平均值	1.5	1.9	3.7	0.7	4.6	1.6	1.7
環境基準値	3.0	3.0	3.0	2.0	8.0	3.0	3.0
過去5年平均値	1.7	1.6	2.6	0.8	4.2	1.4	1.7

最大値、最小値は全データから抽出。75%値、平均値は月平均値から計算した。

【生活環境項目について】

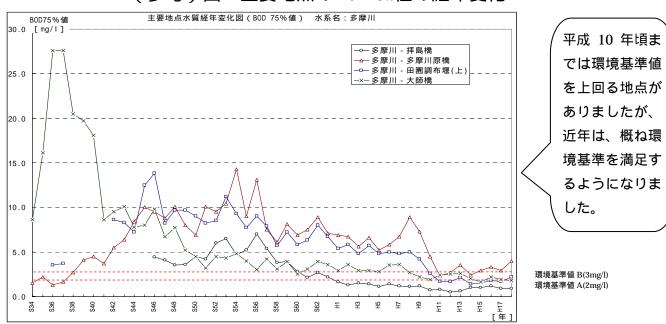
表 - 主要地点の生活環境項目水質概要(平成 18 年度)

地点(河口からの 距離) 項目(平均値)	大師橋 (2.6km)	調布取水堰 (13.4km)	多摩川原橋 (28.1km)	拝島橋 (47.5km)	兵庫橋 (野川)	報恩橋 (大栗川)	高幡橋 (浅川)
pH(-)	7.6	7.7	7.5	7.9	7.6	8.0	7.5
BOD(mg/l)	1.5	1.9	3.7	0.7	4.6	1.6	1.7
SS(mg/l)	9.8	5.3	8.3	2.3	10.0	9.4	6.1
DO(mg/l)	7.3	9.3	8.5	10.3	8.5	9.3	9.2
大腸菌群数 (MPN/100ml)	70,000	26,000	11,000,000	24,000	-	62,000	66,000

1. 平成 18 年度の水質を BOD75%値で見ると、多摩川原橋を除き環境基準値を満足しています。

- 2. 過去 5 年の BOD 平均値と比較すると、平成 18 年度の BOD は、多摩川本川では、多摩川原橋の値がやや高い結果となりましたが、他の地点および支川では、ほぼ過去 5 年平均値と同様の結果でした。
- 3. BOD 以外の生活環境項目については、大師橋の DO が比較的低い傾向を示していました。大腸菌は、どの地点でも環境基準値を上回る結果になりました。その他の項目については特に問題はみられませんでした。

(参考)図-主要地点のBOD75%値の経年変化



(参考)表-生活環境の保全に関する環境基準

項			基準値					
目類型	利用目的の 適応性	水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊 物質量 (SS)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌 群数	該当地点	
Α	水道 2 級 水産 1 級 水浴 及び B 以下の欄 に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/I 以下	25mg/I 以下	7.5mg/I 以上	1000MPN/ 100mI 以下	拝島橋	
В	水道3級 水産2級 及びC以下の欄 に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/I 以下	25mg/I 以下	5mg/I 以上	5000MPN/ 100mI 以下	大師橋 調布取水堰 多摩川原橋 報恩橋 高幡橋	
D	工業用水2級 農業用水 及びE以下の欄 に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/I 以下	100mg/I 以下	2mg/I 以上	-	兵庫橋	

平成 18 年度の環境データ(概要版)(2)

平成 18 年度の河川水辺の国勢調査

河川水辺の国勢調査

河川水辺の国勢調査は、河川環境の基礎情報の収集整理を目的として、多摩川では平成2年度から始められました。生物関係の調査の今までの実施状況は下記の通りです。

衣·多肖	11 小糸での生物調宜美地状况			
調査内容	実施年			
河川調査	H3、H5、H6、H7、H8、H17			
魚介類	H2、H4、H7、H13、H18			
底生動物	H4、H7、H13			
植物	H6(補足 H7)、H11(補足 H12)、H17~18			
鳥類	H5、H10、H16			
両生類・爬虫類・哺乳類	H4、H8、H14			
陸上昆虫類等	H4、H9、H15			
河川空間利用実態調査	H3、H4、H5、H9、H12、H15、H18			

表 - 多摩川水系での生物調査実施状況

・平成 18 年度に多摩川では、魚類および河川空間利用実態の調査を行いました。

魚類調査

・魚類調査は以下の地点で行われました。



調査地点位置

多多京 1	河口 (0.0km)	多多京 9	浅川合流点 (36.0~37.0km)
多多京 2	大師橋 (2.0~3.0km)	多多京 10	日野用水堰下流(44.2~45.2km)
多多京 3	多摩川大橋 (8.0~9.0km)	多多京11	昭和用水堰下流(47.0~48.0km)
多多京 4	調布取水堰下流(12.2~13.2km)	多多京 12	永田橋 (51.0~52.0km)
多多京 5	新二子橋 (17.8~18.8km)	多多京 13	小作堰下流 (55.0~56.0km)
多多京 6	宿河原堰下流(21.5~22.5km)	多多京 14	万年橋(61.0~62.0km)
多多京 7	上河原堰下流 (24.9~25.9km)	多浅京 1	滝合橋 (5.0~6.0km)
多多京 8	大丸用水堰下流(31.5~32.5km)	多浅京 2	鶴巻橋(11.5~12.5km)

:総合調査地区

魚類調査結果(種数)

平成 18 年度に行われた春期・秋期の 2 回の現地調査により多摩川において確認された魚類は、計 66 種でした。調査地点ごとの確認状況は次の通りです。

		多多京一	多多京2	多多京公	多多京4	多多京5	多多京6	多 多 京 7	多多京。	多多京の	多多京门	多多京1	多多京12	多多京13	多多京14	多浅京1	多浅京2	合計
	春期	27	17	11	15	11	9	11	15	12	15	16	16	16	11	9	9	59
確認種数	秋期	20	9	11	13	10	15	14	15	13	15	17	13	11	4	10	10	49
	春夏合計	35	20	15	27	15	22	16	15	16	18	20	18	16	11	10	11	66

重要種

今回確認された重要種は 32 種で、「環境省レッドデータブック」記載種が 9種、「東京都レッドデータブック」記載種が 25 種、「神奈川県レッドデータブック」記載種が 16 種 (神奈川県内で確認されなかった種は除く) でした。

外来種

本調査では外来種として、外来生物法に指定されている特定外来種として、 オオクチバス(ブラックバス) 要注意外来生物として、タイリクバラタナゴ の2種を確認しました。



オオクチバス

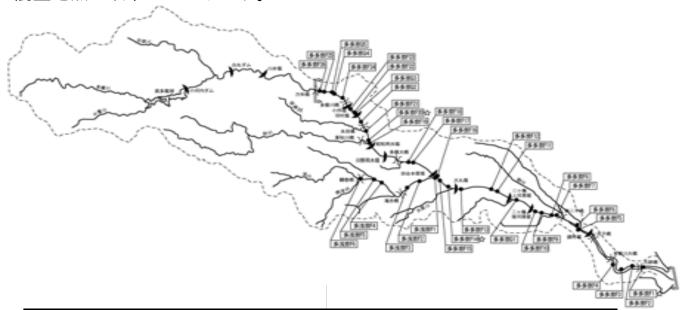


タイリクバラタナゴ

平成 18 年度の環境データ(概要版)(3)

平成18年度 植物調査

平成 17 年度に引き続き、平成 18 年度も植物調査を行いました。 (平成 17 年度:秋期調査、平成 18 年度:春期および夏期調査) 調査地点は以下のとおりです。



多多京Q1	シナダレススメガヤ群落	多多京F8	宇奈根排水樋管下流部		秋川合流部
多多京Q2	オオフサモ群落	多多京F9	東名高速道路上流部	多多京F21	多摩橋下流部
多多京Q3	シバ群落	多多京F10	二ヶ領宿河原堰	多多京F22	羽村取水堰
多多京Q4	キササゲ群落	多多京F11	多摩川原橋下流部	多多京F23	小作取水堰下流部
多多京Q5	シンジュ群落	多多京F12	稲城大橋下流部	多多京F24	多摩川橋上流部
多多京F1	大師橋下流部	多多京F13	大丸用水堰下流部	多多京F25	千ヶ瀬町
多多京F2	大師橋緑地公園	多多京F14	大栗川合流部	多多京F26	柳渕橋上流部
多多京F3	国道15号下流部	多多京F15	第二関戸橋下流部	多浅京F1	新井橋下流部
多多京F4	川崎競馬練習場	多多京F16	四谷本宿用水堰下流部	多浅京F2	高幡橋上流部
多多京F5	小杉排水樋管上流部	多多京F17	中央線多摩川橋	多浅京F3	平山橋下流部
多多京F6	玉川排水樋管下流部	多多京F18	八王子排水樋管下流部	多浅京F4	新浅川橋上流部
多多京F7	新二小橋上流部	多多京F19	昭和用水堰上流部	多浅京F5	浅川大橋上流部
				夕港市區	触类棒下 法如

: 総合調査地区

植物調査結果(種数)

平成 17~18 年度にかけて行われた春期・夏期・秋期調査の 3 回の現地調査により多摩川において確認された植物は、全 140 科 1089 種でした。

表 - 現地調査確認種類数の一覧表 (春期 + 夏期 + 秋季)

	分類群		多摩川	浅川	合計	
シダ植物			59	3	59	
裸子植物			8	1	8	
被子植物	双子葉植物	離弁花類	462	208	466	
	从丁耒恒彻	合弁花類	265	133	270	
	単子葉類		279	136	286	
	合計		1073	481	1089	

重要種

今回の調査において確認された重要種は、春期・夏期・秋期調査の合計で 29 科 60 種でした。全国版の重要種としては、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」記載種が 14 種、「すぐれた自然調査」の貴重植物が 1 種確認されました。また、地方版の重要種としては「東京都の保護上重要な野生生物」掲載種が53 種、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」掲載種が21 種確認されました。

本調査で特筆すべき種は多多京 F10 と多多京 F19 で確認されたジョウロウス ゲで、この種は環境省レッドデータブックの絶滅危惧 IB に該当しており、他に 今回の調査で確認された絶滅危惧 IB 以上の絶滅危惧種はカワラノギクのみでした。





ジョウロウスゲ

カワラノギク

外来種

本調査では外来生物法に指定されている特定外来種として、アレチウリ・オオフサモ・オオオカワヂシャ・オオキンケイギク・ボタンウキクサの5種が確認されました。また要注意種は43種にのぼりました。



アレチウリ

平成 18 年度の環境データ(概要版)(4)

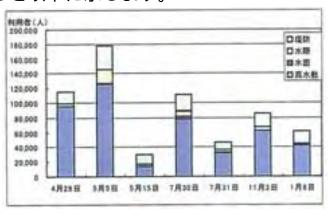
河川空間利用実態調査

河川空間利用状況の実態調査は、以下に示すとおり、多摩川、浅川、大栗川の京浜河川事務所の直轄管理区間で行われました。



形態別および箇所別利用者数

平成 18 年度における各時期の利用者数を形態別、および箇所別に比較したものを以下に示します。



| 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 10

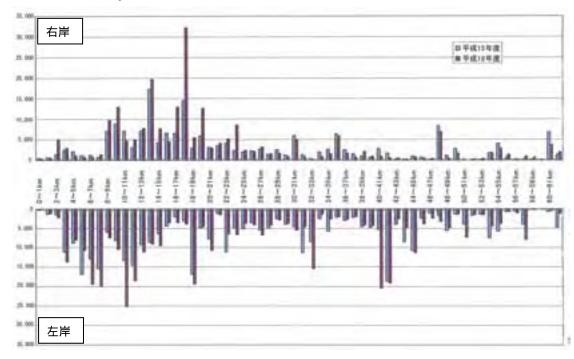
平成 18 年度形態別利用者数

平成 18 年度箇所別利用者数

- ・時期別の利用者数をみると、春期に最も多く、夏期、冬季の順で利用者数は減少する傾向でした。なお、最も利用者数が多いのは「こどもの日」の5月 5日、最も少なかったのは春期の平日の5月15日でした。
- ・利用者数を形態別にみると、最も人数が多いのはスポーツで、次いで散策等 であり、釣りや水遊び等は少数でした。
- ・利用者数を利用箇所別にみると、「高水敷(河川敷)」が最も多く、次いで「堤防」であり、逆に「水面」、「水際」等の実際に水に触れて行う利用形態は少数でした。

区間ごとの利用者数

多摩川における区間ごとの利用者数について、平成 18 年度と平成 15 年度(前回調査実施年度)の結果比較を行った結果は以下のとおりです。



平成 18 年度 1 年間の多摩川水系の直轄管理区間における利用者数は、1607 万人となり、前回調査の平成 15 年度と比較して約 270 万人の増となりました。

・利用者数が増加している区間(増加数上位3位):

区間	左右岸	H15年度	H18年度	増減数
17 ~ 18km	左岸	14,527	32,184	+17,657
40 ~ 41km	左岸	5,350	20,446	+15,096
10 ~ 11km	左岸	13,316	25,178	+11,862

17~18km 左岸は利用者数の多い兵庫島河川公園が含まれています。

また 40~41km、10~11km 左岸は共に運動場などが整備されており、集会やスポーツ大会などが頻繁に行われているためにこれらの開催日程に左右されて利用者が顕著に変動したものと思われます。

・利用者数が減少増加している区間(減少数上位3位):

区間	左右岸	H15年度	H18年度	増減数
22 ~ 23km	左岸	11,243	6,483	-4,760
5 ~ 6km	左岸	16,937	10,799	-6,138
31 ~ 32km	左岸	11,325	4,574	-6,751

これらの区間は、公園や運動場が整備されている箇所であり、元々利用者数約 10,000 人以上と比較的多いことから、これらのスポーツ大会、集会等の開催日日程等の変動によるものと思われます。